

2023 年度（令和 5 年度）

愛 知 県

「若者・外国人未来応援事業」

成 果 報 告 書

2024（令和 6）年 3 月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課



目 次

1	本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的	1
2	事業の全体概要	2
3	令和5年度「若者・外国人未来塾」の実施状況	
■	名古屋地域	9
■	豊橋地域	13
■	豊田地域	17
■	半田地域	20
■	春日井地域	25
■	一宮地域	29
■	蒲郡地域	33
■	愛西地域	38
■	知立地域	42
	【日本語学習支援】	
■	名古屋地域	46
■	豊橋地域	49
■	豊田地域	52
■	春日井地域	55
■	蒲郡地域	58
■	知立地域	63
	＜項目＞	
	・ 参加者の状況	
	・ 参加者の感想・メッセージ	
	・ 支援スタッフ	
	・ 参加者への周知・広報	
	・ 日本語学習支援の内容について	
	・ 成果と課題（支援スタッフ・運営者）	
	・ 運営者の声	
	○ 参加者ピックアップコラム	
4	2023（令和5）年度「若者未来応援協議会」の実施状況	
(1)	合同協議会について	67
(2)	地域協議会について	67
5	学習支援に参加された皆さんの声	72
6	事業の成果と課題	
(1)	成果	75
(2)	課題	76

1 本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的

近年、所得格差は拡大し「子供の貧困」が社会的に注目されている。厚生労働省の2022（令和4）年国民生活基礎調査によると、2021（令和3）年の貧困線¹は127万円となっており、貧困線を下回る所得の世帯が相対的貧困にあたる。将来的な進学や就職などへの影響も深刻とされる、17歳未満の「子どもの貧困率²」は11.5%（OECD平均：12.8%）で、前回調査（2019（令和元）年）時の14.0%（2018年数値）から2.5%減少しているものの、依然としておよそ8人に1人が該当し、貧困家庭に生活する結果となっている。また、子供がいる現役世帯³のうち、「大人が一人⁴」の世帯員でみると44.5%（2019年調査から3.8%減、OECD平均：31.8%）にのぼり、半数近くが困窮にあえぐ状況が続いている。特に、社会的困難を抱えた子供にとって学校を離れた後の継続的な支援がないことが課題とされている。

本県においても、義務教育段階の支援については、放課後子ども教室や地域未来塾及び不登校の支援をアウトリーチにより実施している家庭教育コーディネーター設置事業など（いずれもあいちの学び推進課が担当課）があるが、義務教育終了後の社会的困難を抱える若者に対する支援体制は十分ではない。

また、本県には外国人居住者が多く、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は10,749人と全国最多であり、2番目に多い神奈川県（5,261人）の2倍超と突出している。

本県の困難を抱える若者の状況については以下のとおりである。

【県の状況】

・中学校不登校生徒数：13,367人	全国ワースト3位（2022年度）
・中学校卒業後進路未定者数：695人	全国ワースト2位（2022年度）
・高等学校等中退者数：2,483人	全国ワースト4位（2022年度）
・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数：10,749人	全国1位（2021年度）

¹ 等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額。2018（平成30）年の調査から「新基準（2015（平成27）年に改定されたOECDの所得定義の新たな基準）」となっている。

² 子ども（17歳以下の者）全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合。貧困率は、その人の所得ではなく、その人が属する世帯の所得をもとに計算。

³ 世帯主が18歳以上65歳未満の世帯のこと。

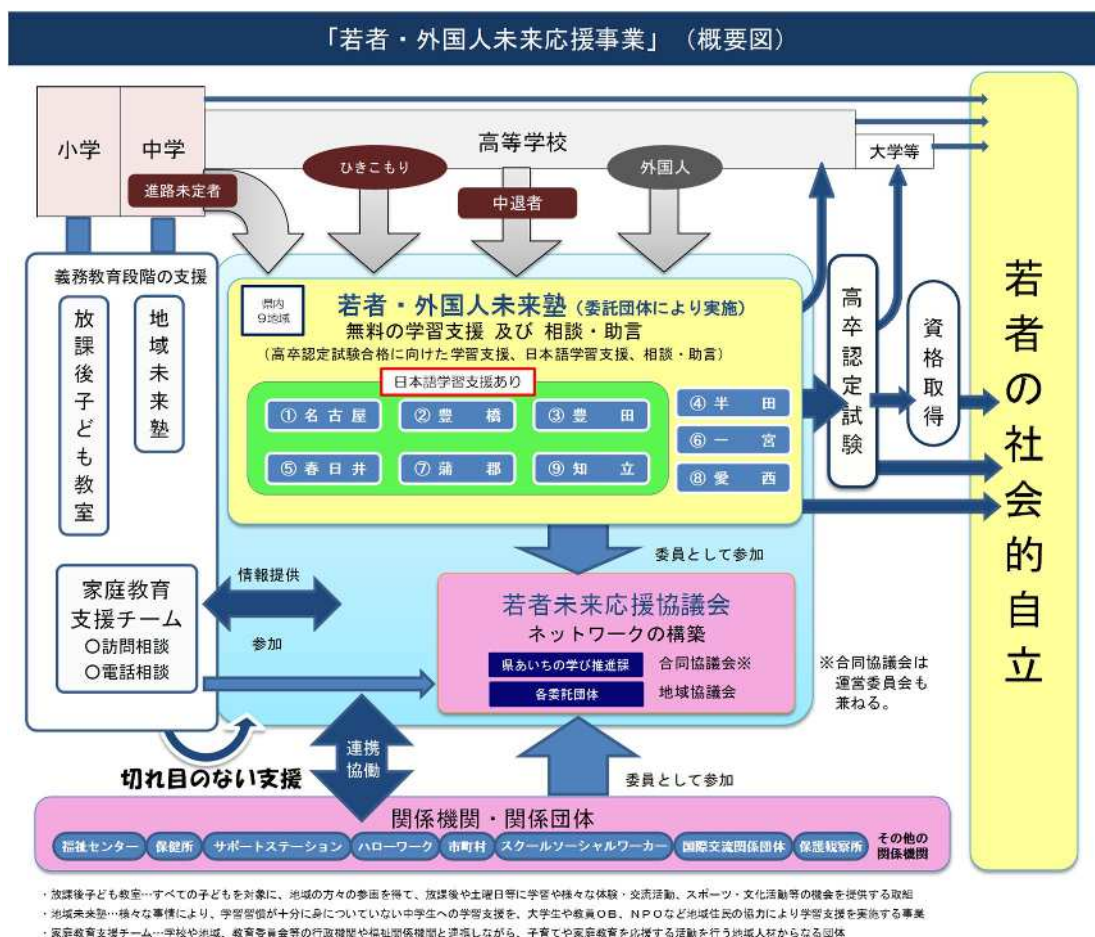
⁴ 「子どもがいる現役世帯」に含まれる「大人」には親以外の世帯員も含まれるため、「祖父（母）と子ども」「18歳以上の兄姉と子ども」といった場合等も考えられ、「ひとり親世帯」とは限らない。

こうした状況を鑑み、本県は、文部科学省の「地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン～親子の学び・育ち応援プラン～」(後に「学びを通じたステップアップ支援促進事業」となる。)の委託を受け、2017(平成29)年度から「若者・外国人未来応援事業」の実施を開始した。その後、3年間委託を継続し、2020(令和2)年度からは「学校・家庭・地域連携協力推進事業補助金」(学校を核とした地域力強化プラン)の一つとして新設された「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」を活用して事業を行うこととし、本年度で7年目となる。

本事業においては、中学校卒業後の進路未定者や高等学校中退者等の社会的自立を支援するため、地域若者サポートステーション(以下「サポステ」という)をはじめとした、教育、福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関等と連携し、学校教育から切れ目のない支援を行うこととした。また、社会と出会う学びづくりをとおして、社会的困難を抱えた若者の自己肯定感を高め、自立を促すことにより将来の貧困を防ぐとともに、若者の多様な居場所づくりに地域全体で取り組むことにより、困難を抱えた若者を地域で支援する体制の構築を目指すものである。

2 事業の全体概要

【2023(令和5)年度 事業概要図】



(1) 「若者・外国人未来塾」・「若者未来応援協議会」

愛知県では、事業名を「若者・外国人未来応援事業」とし、県教育委員会あいちの学び推進課が主体となり、七つの委託団体及び関係機関・団体等と協働して、事業を実施する。

本事業は、「若者・外国人未来塾」と「若者未来応援協議会」の二つを柱とする。

ア 若者・外国人未来塾

「若者・外国人未来塾」とは、県内9地域（名古屋、豊橋、豊田、半田、春日井、一宮、蒲郡、愛西、知立）において、無料の学習支援及び相談・助言事業を行う支援の場である。中学卒業後の進路未定者、高校中退者、ひきこもり状態の人及び外国人等、社会的困難を抱える若者を対象として、主に高卒認定試験合格に向けた支援を行う。また、名古屋、豊橋、豊田、春日井、蒲郡、知立の6会場においては、日本語習得の不十分な外国人のため、学習言語としての日本語学習支援も行う。

また、学習面で問題を抱える若者は、他の様々な社会的困難も同時に抱えていることがあるため、対象者の要望に応じ、本事業で連携する福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関・団体の適切な窓口を紹介し、支援が受けられるように誘導する。

【2023（令和5）年度「若者・外国人未来塾」の実施概要】

●高卒認定試験合格等に向けた学習支援、相談・助言

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	水曜日 17:30～19:30 土曜日 15:00～17:00	4月5日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月4日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00 第1・第3土曜日 13:30～16:30	4月1日
半田	NPO法人ICDS	ちた地域若者 サポートステーション	水曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 (ただし、第4水曜日は 休館のため翌日木曜日に実施)	4月1日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00 木曜日 18:00～20:00	4月13日
一宮	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	一宮市立中央図書館	火曜日 17:30～19:30 土曜日 16:00～18:00	4月4日

蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	水曜日 13:00～17:00 木曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 【とよかわサテライト】 水曜日 13:00～17:00 金曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00	4月4日
愛西	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	愛西市文化会館	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月14日
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	刈谷市城町図書館	水曜日 16:00～18:00 金曜日 16:00～18:00	4月5日

●日本語学習支援

(対象：日本語支援が必要な外国人等。内容：読み書きを中心に個別指導を基本とする。)

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	土曜日 15:00～17:00	4月8日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	木曜日 18:00～20:00	4月6日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00のうち1 時間	4月1日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00	4月17日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	土曜日 13:00～17:00 のうち2時間 【とよかわサテライト】 土曜日 13:00～17:00 のうち2時間	4月4日
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	ぷらっとほーむ事務所	水曜日 13:30～15:30 金曜日 13:30～15:30	4月5日

イ 若者未来応援協議会

学識経験者の助言のもと、就労支援機関をはじめ、福祉、保健、労働、その他関係機関・団体等と、効果的な連携・協働の在り方等について協議するため、県教育委員会あいちの学び推進課が設置。対象者が必要とする支援先を相互に案内できるネットワークの構築を目指す。

- ・関係機関等に対する事業周知、及び、相互の連携・協力体制の構築を図るため、県レベルの委員で構成される**合同協議会**を設置。（年2回開催）
- ・各地域の実情に応じた支援ができるよう、各地域における関係機関・団体等の委員からなる**地域協議会**を設置。（各地域年2回開催）

- ・合同協議会は、研究部会の機能を加え、全ての実施地域の事業の在り方、事業の普及・啓発方策及び事業の評価等について総合的に協議することとする。
- ・各地域で実際に利用者に対して学習支援を行っている様子を見学・情報交換等を行う機会として、委託団体が他地域学習支援の視察を行う機会や、合同協議会・会長と委託団体、本課が参加する事業内容の充実を目指す情報交換会をオンラインで実施した。

(2) 7か年の事業実績

ア 学習支援参加者（相談のみも含む。）

地域	実人数(下段：外国人内数)							延べ人数(下段：実施回数)						
	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29
名古屋	42	39	36	23	24	20	25	491	339	259	219	222	180	61
	2	3	0	0	0	1	8	88	83	86	66	68	69	30
豊橋	26	20	29	32	23	18	11	531	358	376	426	401	191	190
	14	13	21	24	13	7	0	124	84	87	58	69	67	59
豊田	28	29	34	35	30	14	9	340	245	420	528	371	102	154
	13	18	20	23	20	5	1	116	115	113	100	65	61	59
半田	23	17	10	5	3			291	122	151	66	47		
	1	0	3	0	0			76	84	91	67	55		
春日井	12	19	13	11	5			257	197	260	215	135		
	1	3	0	0	0			75	80	74	70	68		
一宮	18	7	4	4				268	86	23	24			
	8	4	0	2				84	82	74	60			
蒲郡	32	30	37	12				661	653	397	159			
	0	0	11	3				200	183	171	102			
愛西	11	9	4					118	127	76				
	6	3	0					71	79	63				
知立	14	19						227	223					
	0	4						88	81					
合計	206	189	167	122	85	52	45	3,184	2,350	1,962	1,637	1,176	473	405
	45	48	55	52	33	13	9	922	871	759	523	325	197	148
								1回平均	3.45	2.7	2.58	3.13	3.62	2.74

【参加者の状況について（学習支援・外国にルーツをもつ者：国籍）】

地域	人数	インドネシア	韓国	スリランカ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ペルー	ボリビア	ヨルダン	不明
名古屋	2								1				1	
豊橋	14					1				1	11			1
豊田	13					1	1		1	8	2			
半田	1									1				
春日井	1			1										
一宮	8								8					
蒲郡	0													
愛西	6			1				2	3					
知立	0													
合計	45	0	0	2	0	2	1	2	13	10	13	0	1	1

イ 日本語学習支援参加者

地域	実人数							延べ人数(右側：実施回数)													
	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29							
名古屋	2	4	0	4	20	5	12	3	43	10	40	0	44	20	20	118	33	26	33	49	30
豊橋	8	11	18	19				108	124	28	45	89	47	161	31						
豊田	10	18	20	24				171	116	160	115	268	113	300	96						
春日井	1							14	37												
蒲郡	21	22						255	152	387	157										
知立	19							324	88												
合計	61	55	38	47	20	5	12	875	560	585	357	357	204	481	147	118	33	26	33	49	30
								1 回平均	1.56	1.64	1.75	3.27	3.58	0.79	1.63						

【参加者の状況について（日本語学習支援：国籍）】

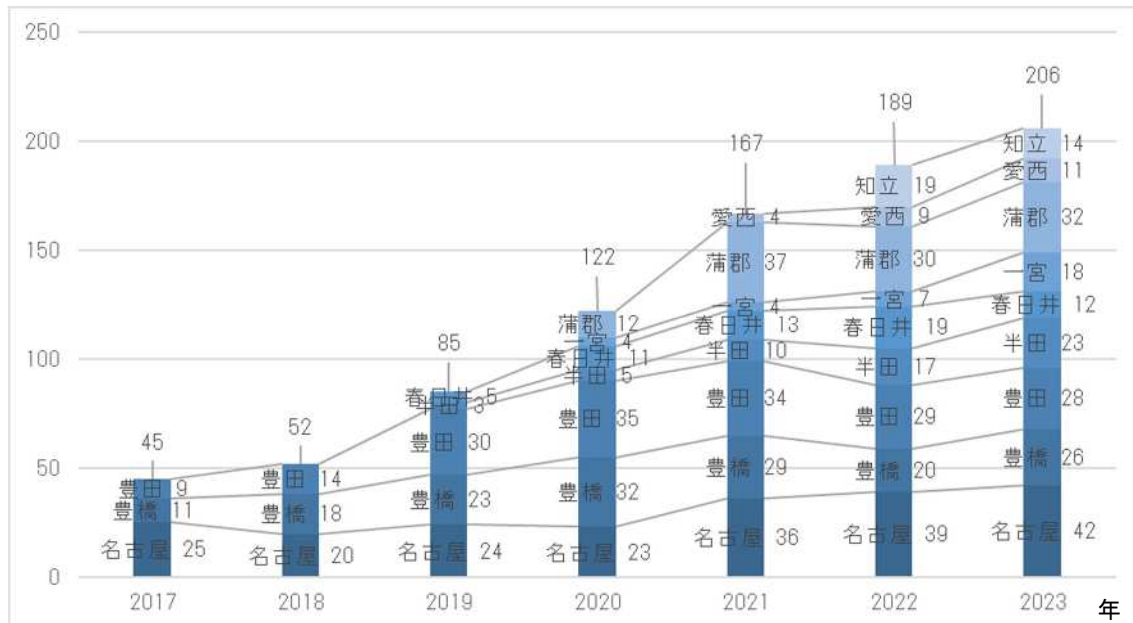
地域	人数	インド	インドネシア	韓国	スリランカ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ペルー	ベトナム	ボリビア	ミャンマー	ヨルダン	日本	不明
名古屋	2															1	1	
豊橋	8											5					2	1
豊田	10						1	1			4	2					2	
春日井	1				1													
蒲郡	21	1	1	2		1				11	1	1					2	1
知立	19		1		1				3	8		3	2		1			
合計	61	1	2	2	2	1	1	1	3	19	5	11	2	0	1	1	7	2

ウ 高卒認定試験合格者

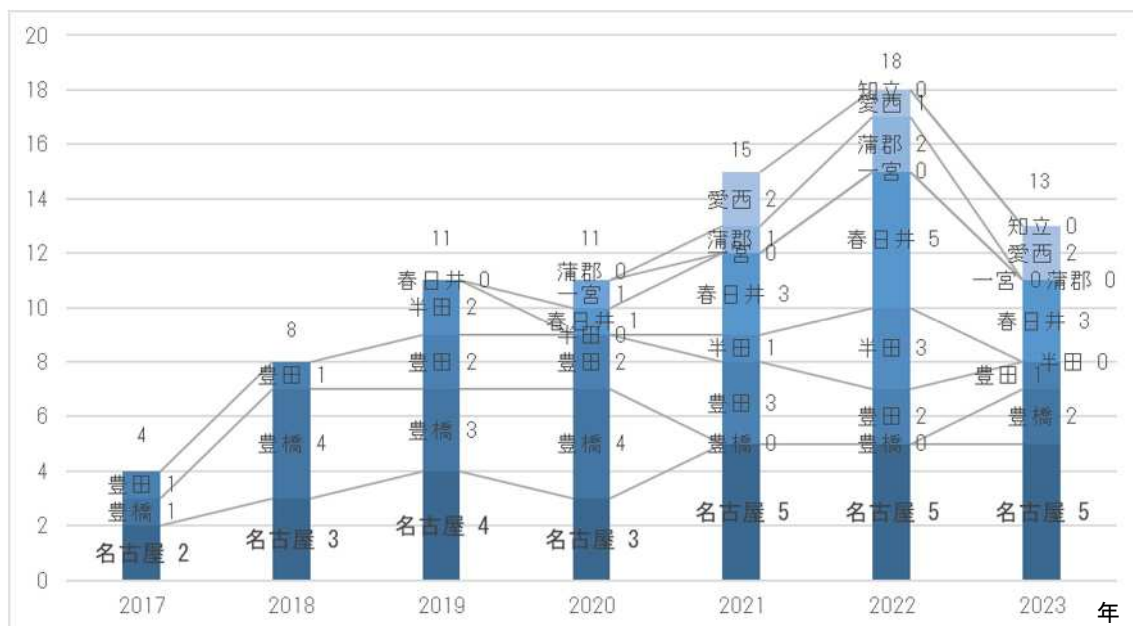
地域	出願者数							全科目合格者数							一部科目合格者数(延べ)							一部科目合格者実数						
	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29
名古屋	10	10	9	8	8	10	4	5	5	5	3	4	3	2	4	4	4	4	3	4	2	3	2	2	4	3	4	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊橋	3	1	2	8	7	6	2	2	0	0	4	3	4	1	4	2	3	5	3	2	2	1	1	2	4	3	1	1
	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊田	4	4	7	6	5	3	2	1	2	3	2	2	1	1	4	1	5	4	1	1	2	3	1	4	3	0	0	1
	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
半田	4	5	4	1	2			0	3	1	0	2			3	0	5	1	0			3	0	3	1	0		
	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0			0	0	0	0	0			0	0	0	0	0		
春日井	7	12	7	4	2			3	5	3	1	0			2	3	5	5	0			2	3	4	2	0		
	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0			0	0	0	0	0			0	0	0	0	0		
一宮	3	0	1	2				0	0	0	1				0	0	0	0				0	0	0	0			
	0	0	0	0				0	0	0	0				0	0	0	0				0	0	0	0			
蒲郡	2	3	1	1				0	2	1	0				3	1	0	0				2	1	0	0			
	0	0	0	0				0	0	0	0				0	0	0	0				0	0	0	0			
愛西	2	4	2					2	1	2					1	2	0					0	2	0				
	0	0	0					0	0	0					0	0	0					0	0	0				
知立	0	0						0	0						0	0						0	0					
	0	0						0	0						0	0						0	0					
合計	35	39	33	30	24	19	8	13	18	15	11	11	8	4	21	13	22	19	7	7	6	14	10	15	14	6	5	4
	0	0	2	1	2	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
7 年合計	188							80							95							68						
	6							3							1							1						

【7か年の推移（グラフ）】

学習支援参加者の推移・実人数（人）



高卒認定試験合格者数（人）



【2023（令和5）年度 若者未来応援協議会 合同協議会委員名簿】

● 合同協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・教授
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
竹内 洋江	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
山下 智史	委託先	NPO法人いまから・学習支援員代表
永坂 正和	委託先	公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田市青少年センター・所長
井戸 千尋	委託先	NPO法人ICDS／ちた地域若者サポートステーション・センター長
小楠 修平	委託先	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団 東海事業本部 名古屋事業所長
鈴木 法政	委託先	NPO法人青少年自立援助センター北斗寮・理事長
高須 了	委託先	NPO法人ぷらっとほーむ・副理事長
高原 和宏	国・就労	愛知労働局職業安定部職業安定課人材確保支援係・業務補佐
細川 宏貴	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐
都築 芳郎	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 （多文化共生推進G）・室長補佐
中村 克成	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 （日本語教育推進G）・主査
後藤 陽	県・福祉	愛知県福祉局福祉部地域福祉課・主査
三原 亜矢巳	県・保健	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室・室長補佐
扇谷 めぐみ	県・就労	愛知県労働局就業促進課・課長補佐
鶴見 泰文	県・教育	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐
小野内 茂喜	県・生涯	愛知県教育委員会あいちの学び推進課・課長

3 令和5年度「若者・外国人未来塾」の実施状況

名古屋地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

42人（継続14人・新規28人）

<居住地>

居住地	名古屋市千種区	名古屋市東区	名古屋市北区	名古屋市西区	名古屋市中村区	名古屋市昭和区
人数	5	2	1	5	3	2
うち外国人数				1		
居住地	名古屋市熱田区	名古屋市中川区	名古屋市港区	名古屋市南区	名古屋市守山区	名古屋市緑区
人数	1	2	2	1	2	3
うち外国人数			1			
居住地	名古屋市名東区	名古屋市天白区	春日井市	江南市	尾張旭市	県外
人数	1	5	3	1	1	2
うち外国人数						

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数			18	5	2	17
うち外国人数			2			

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	9	21	7	4	1
うち外国人数	1		1		

その他の内訳 不明 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

認定試験合格 15(2)、就職 11、大学進学 5、高校進学 2、専門学校進学 2、転職 2、資格取得 2、留学 1、専修学校卒業 1、学び直し 1

オ 参加の経緯

インターネット（県サイト）、他機関からの紹介、テレビ・新聞、図書館で見た

カ 状況、ニーズ等

- ・高校中退後まもなく、高認合格を経て進学を目指すケース。またひきこもりや、ネグレクト・虐待等家庭環境での疎外からの回復ステップとして、まず高認合格を目指すケース（主に10～20代、インターネット等で自身や家族で情報を見つけて参加する場合と、他機関からの紹介の事例が多い）
- ・高卒資格を持たない非正規職や主婦などで、転職や資格の取得に向けて高卒資格を目指すとするケース（30代以上、インターネット等で自身が情報を見つけて参加する事例が多い）
- ・発達障害や精神疾患などを抱えているため高校や大学に進学することができなかったが、高認を経て学び直したいと考えるケース（全世代、他機関からの紹介が多い）

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8月	9	3	4
11月	2	2	
年間（実人数）	10	5	3

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
学習会に参加したから、受検科目全て合格することができた。自分一人の学習では、受検科目全て1回で合格することができなかったかもしれないので、学習会に参加したことは、とても良かった。	選択していない科目の基礎を学んでいきたい。教科書のコピーや重要事項のプリントなどは役に立つので今後も重要な部分をまとめたプリントを制作いただき基礎から学んでいきたい。	「数研出版」から出ている「地学図録」の本を教えてもらったのでおすすめです。他にも「数研出版」からは物理、生物、化学の図録があるのでおすすめです。「山川出版」の世界史、日本史図録もおすすめします。学習会に参加したからこそ解けた問題があるので、学習会に参加することをおすすめします。
1人で高卒認定試験の勉強するのはとても難しかったので、分からなかったことがあるとすぐ聞くことができる環境はとても有り難かったです。	特にないです。	1人で勉強するのに難しさを感じていたら参加してみると良いと思います。
先生方が一生懸命私のレベルに合わせて教えてくれるので、無理なく続けられ通うのが楽しいです。	お互いを守るためにマスクをしたほうが予防のためによいと思います。	気軽に参加して、週2回2時間だけなので、苦にならず続けやすいので、通わないと損だと思います。

勉強がとても楽しく感じます。職員さんがとても親切なので、とても通いやすいです。	2～3の部屋で個別に教えていますが、たまに音が少し大きい時があるので、集中できない時があります。静かなところで勉強したいというのが要望です。	勉強のやる気がある方はぜひ来てみてはいかがでしょうか。
---	--	-----------------------------

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生、大学院生（9人） ・元教員（3人） ・法人スタッフ（2人）
スタッフの募集方法	・スタッフによる知人・後輩等の紹介	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり） ・大学等への広報 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共機関、図書館	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ
地域協議会・研修等	・若者支援団体等	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・新規参加者への学習相談を丁寧に行い、本人の状況に応じて学習の継続が可能となるような関わり方ができるような提案を行うこと ・学習が進めやすいよう、既製の教材を渡すだけでなくポイント等をまとめたオリジナルな教材を渡すなどスタッフによる独自の取組を行うこと

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して参加する参加者が増えた印象（支援スタッフ） ・参考書等を精選し、多様な学習ニーズに対する教材・手立ての選択肢を増やすことができた（運営者）
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・試験直前だと参加者が多すぎて対応できない。場所が手狭で個別対応の限界がある。（支援スタッフ） ・2月まで来ている参加者が1ヶ月以上の休みの後年度明けに参加してくれるのかという不安（支援スタッフ） ・情報が古い教材の更新（支援スタッフ） ・個別対応の時間や量に対する参加者間での不公平感、認定試験合格後の参加者や、直近の認定試験を明確に目指す利用者と趣味・教養的な学習を目指す利用者に対する支援をどこまで行うかの線引き（運営者） ・特定のスタッフとの間でないと、コミュニケーションが難しい参加者への対応：スタッフ固定での担当は難しいため、学習支援の場そのものと参加者との信頼関係をどのように築いていくか（運営者）
----	--

7 運営者の声

例年と同様であるが、「高卒認定試験の合格」が学習の目的となっている新規参加者が全体の3分の1程度となっている。何らかの生活課題に直面する中で、きっかけとして認定試験の合格を目指して学習に向き合うことはとても大切であり、その受け皿となる必要があるが、認定試験に向き合う過程でその後の進路や、本人のやりたいことや生きがいを見つけたりそれにつながる他の機関とつなげたりすることを意識して関わることが求められるように感じている。

参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人あいち・子どもNPOセンター

Aさん（44歳 男性）

転職を目指して参加。過去に高校は中退しているが、単位の保存期間を過ぎてしまったため全科目の取得が必要であったが、毎回継続して参加して自身でも復習を行い11月に全科目合格。

Bさん（17歳 女性）

精神疾患があり高校中退後に他機関からの紹介で参加。進路は未定だが、高卒資格を目指して少しずつ学習を進めている。保護者からの相談もあり、会話だけでなく書いて説明するなどの工夫をしている。

Cさん（18歳 男性）

家庭の事情で養護施設に入ったため、高校を中退。自転車で通いながら、継続的に学習に取り組み、全科目合格。

豊橋地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

26 人（継続 9 人・新規 17 人）

<居住地>

居住地	豊橋市	豊川市
人数	22	4
うち外国人数	12	2

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上	不明
人数	7	6	7	1	1	2	2
うち外国人数	4	5	4				

ウ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1	4	4	1	16
うち外国人数		1	3		10

その他の内訳 ペルーの 5 年制中学校卒業（高卒とみなされない） 1、中学校在学 8(7)、小学校在学（不登校ぎみ） 2、利用者の関係者 1、保護者 1、小学校在学 3(3)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

高卒認定試験合格を目指す 4、学校の勉強を強化 3(1)、高校入学を目指す 2(2)、小学校 4 年生相当の学習 2、日本語・学校の勉強を強化 1、高卒認定試験受験の可能性あり 1(1)、漢字の学習・中学校の学習 1(1)、基礎的な算数、漢字の補完 1、大学進学を目指す 1(1)、漢字の学習。中学校の学習 1(1)、本人の学力向上 1、高卒認定試験の合格を目指す（その後短大を目指す可能性あり） 1(1)、不明 7(5)

オ 参加の経緯

- ・ 口コミ（主に外国人コミュニティの家族間）
- ・ 学校からの紹介

カ 状況、ニーズ等

- ・ 外国人コミュニティの口コミにより、学校での学習が追いついておらず、家庭で家族が支援できないという状況が特に多い。

- ・高校を退学する意思が強いため、高認資格取得を希望した利用者が在籍（これも上記の外国人コミュニティと関連している）。
- ・高校を卒業して成人しているが、学び直したいという利用者がいた。
- ・日本・南米間の引っ越しがあり、国内では中学も卒業していないという利用者が在籍
- ・コロナウイルスによる一時的な渡航制限（これ自体は数年前）により、日本・南米間を往来している利用者の学習状況に混乱が生じてしまった利用者が在籍。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8月	3		3
11月	3	2	1
年間（実人数）	3	2	1

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
日によって教えてもらえる科目を変えるなど、要望を聞いてもらえるので飽きることなく毎回来ています…（10代）	特になし	英語がまったく分からなかったけれど、傍についてもらったので、短期間である程度読めるようになりました。短期間で覚えるのにはもってこいです。
難しいところもあるが、学習に関する雑談がおもしろいことがある…（10代）	席を離さないでほしい	入らなきゃ損！
学校などで授業中に聞けなかったものも聞くことができる…（10代）	特になし	

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5人	・学習支援経験者（4人） ・通訳（1人）
スタッフの募集方法	・現在募集は行っていない	
スタッフ確保のための方策	・支援団体間のネットワーク	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・ココエール等、市の関連機関	
インターネット	https://npoimakara.org/gakusyu/gakusyuu.html	
外国人 コミュニティ	・外国人の生活相談	多数の参加表明があった

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によって進捗状況が異なるので、どの教科ならば二人以上を同時に見られるか、あるいは個別に学習する必要があるか等の情報を支援員間で共有できるようにしている。 ・数学は特に得意な人と苦手な人に分かれやすい。途中まで学習すると一気に伸びる科目である。よって、最初から数学に力を入れている。また、外国に長期滞在していた支援員が在籍しているので、英語にも時間を割いてじっくり学べるようにしている。 ・国語に関しては、現代文の読解方法にテクニックがあるので「不正解の選択肢がなぜ不正解なのか」を一緒に考えることで確実に得点できるような工夫をしている。 ・タブレットのクイズアプリなども利用している。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツがあり、日本生まれではあるが学齢期に10年ほど南米に滞在していたという利用者が在籍していた。最終的に高卒認定試験の全科目合格まで付き添うことができた。日本語は堪能であるが、それでも読解をする場合は多少の誤読があるために国語が最後の難関であった。現代文で確実に点数をとるためのトレーニングを行った。 ・高校の入学を目指している利用者に対して、独学が困難である「英語」「数学」などの支援に力を入れている。 ・親の希望により参加したが、当人に高認試験に対する興味が無いという参加者もいた。この利用者に対しては、本人がどのようなものが好きなのかを調べることに時間を割いたが、現在は漢字検定の学習に興味をもったようなので、柔軟にサポートしている。 ・また、成人しているが小学校時に登校できなかったという利用者も在籍している。 ・成人の学び直しにも対応した。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堅苦しい雰囲気せず、雑談なども許容することで気軽に参加できる雰囲気作りを目指しているが、賑やかすぎるために支援が困難になる場合もある。特に日本語学習支援（利用者のニーズより、高卒試験支援の曜日であっても日本語支援も行っている）の場合は外部スタッフとオンラインで繋がっているために、部屋が賑やかすぎると効率的な支援ができない。部屋を余分に借りて、静かに勉強したい利用者とそうでない利用者を分けるなどの対策をとっているが、スタッフの配置バランスが難しい。 ・ 上記の理由により、宣伝をほとんど行っていない。現状では口コミによる参加で一定数の利用者を確保できているが、外部支援団体との繋がりが弱く、勉強面で困難を抱えている人や、学校に行けなかった人を利用者にするための方法が確立できない。 ・ 英単語など暗記が必要な場合、自宅での練習も有効であるが、どんな方法を勧めるべきかはっきりしていない。
----	--

7 運営者の声

現状での利用者はほとんどが外国籍である。幼少期から日本に滞在している日本語ネイティブスピーカーが多いが、それでも家庭では日本語を使わないために語彙力などが徐々に追いつけなくなる利用者も多い。そこで、高卒認定試験の支援の前段階として外国籍の中学生なども支援の対象としている。当地域では「外国の5年制中学校に在籍していたために日本では高卒資格をもっていない」という利用者がいた。（中卒資格ももっていないが、こちらは大使館を通じた手続きを経て取得すること自体は可能である。ただし、本人は高卒資格を得た方が早いと判断した）日本語を話すことができる者であるものの、教科書に出てくるような用語などに不慣れであるため、全教科突破は容易ではなかったが、今年度は最終関門である国語に合格することができ、高卒資格を得ることができた。支援者としては大変に勇気づけられるものであった。その一方で、中学生の利用者が多数在籍していることにより部屋での会話が多いという点が問題になっている。本事業の要望の中に「席を離さないでほしい」という希望があるので、席を離さず雑談を許容しつつ、それでも学習の意欲につながる方向にもって行く方法が難しい。通常の学習塾とは異なる雰囲気を許容しているので、できればこの要望には応えたい。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 特定非営利活動法人 いまから

Mさん（24歳 男性）

Mさんは2年以上前から学習支援に参加していました。小学校卒業までは日本で育ちましたが、その後外国へ引っ越し。南米で10年近く過ごしたため、学校制度の違いにより高卒資格をもっていませんでした。本人は日本語能力検定の1級をもっているために日常会話だけでなく、文章の読解なども問題はありません。

しかし、高卒認定試験の国語となると、問題文の分量も多く、誤読なども発生するためにハードルは低くありませんでした。古文・漢文はある程度のところで切り上げて、とにかく現代文で点数を稼ぐという方法を徹底しました。設問のうち「なぜこの選択肢は不正解なのか」を一緒に検討しながら少しでも点数をとるという手法をとりました。

最後に嬉しそうに合格の報告をしてくれた姿が印象に残っています。

豊田地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

28 人（継続 4 人・新規 24 人）

<居住地>

居住地	豊田市	岡崎市	みよし市	不明
人数	23	1	1	3
うち外国人数	11			2

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上	不明
人数	1	10	9	4		3	1
うち外国人数	1	6	2	2		2	

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	2	2	10	1	13
うち外国人数	1	1	2	1	8

その他の内訳 中学校在学 7(4)、小学校在学 1(1)、不明 5(3)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学力補充・成績向上のため・不登校で遅れた勉強を取り戻したい 8(5)、高認取得 4、
大学進学 3(1)、高校進学 2(1) 高校卒業 1 日本語学習 2(2)、
ブラジル人小学生に簡単な勉強を教えたい。1(1)、不明 4

オ 参加の経緯

青少年センターのちらし、X(旧 Twitter) 友人知人、高校の先生、の紹介

カ 状況、ニーズ等

- ・高校を不登校で退学した。高卒認定合格後は就職したい。
- ・中学で不登校になった。未来塾のおかげで高校に入学でき、昨年夏は海外に短期語学留学できた。大学入試と英検 2 級合格に向け勉強中。
- ・正看護師になるための学校に入るため、高卒の資格が必要。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8月	3	1	3
11月	4		
年間（実人数）	4	1	3

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことが ない人に対するメッセージ
前向きに勉強に取り組めるようになった。…（20代）		いつも優しく丁寧に教えてもらえる。
大学に入って資格や免許を取り、後悔のないようにやりたいことをやりたいと思えるようになった。…（10代）		優しくて、いっぱい褒めてもらえて、やる気を伸ばしてくれる。
勉強が楽しくなり、テストの点も上がった。…（10代）		自由に楽しくマイペースで勉強できる。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6人	・教員、教員OB（5人） ・大学生（1人）
スタッフの募集方法	・教員OBの口コミ	
スタッフ確保のための方策	・教員OBの口コミ（指導教科を絞って募集） ・未来塾卒業生への声かけ ・インターンシップ参加者への声かけ	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・公共施設、国際交流協会他関連団体	紹介ケースが増えている
説明会	・市内公立高校校長会	退学前に情報を届けられる
HP や X(旧 Twitter)	・一般市民	

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定科目変更に伴う、習得単位や免除単位の考え方について研修を行なった。 ・出席できてない受講生にハガキを送り、参加の再開を促したり、オンライン学習活用の案内を行った。 ・参加者の受講状況を講師間で共有化できるよう、学習記録簿の見直しを図っている。
--

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の高校生1名が大学に合格した。 ・受講生が4月から大学生スタッフになることを希望している。 ・高校受験で2名が推薦合格。 ・英語検定2級や歴史検定を受験する受講生がいるなど、学習意欲が高まってきている。 ・コロナ禍で受講生が激減したが、徐々に回復しつつある。講師が会話の中心になって盛り上げているため、参加者が増えるにつれ、学習会場の雰囲気が穏やかに明るくなっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校から復帰する前段階として未来塾の受講生が増えた場合、講師サイドの対応方法共有化や別会場が必要な場合の準備等に対応できるか。 ・大学入学試験に必要な学力レベルや進学後の費用などについて、高校に在学していないと正確な知識を得ることが難しくなる。現在の大学難易度や奨学金のシステムなど、正確で分かりやすい資料をどのように準備するか。 ・講師の年齢が高くなり、新しい講師を紹介していただける人材が減ってきている。不登校や日本語に不慣れな受講生の増加を考えると、指導力の高い講師（教員OB）を確保する手段を検討する必要がある。

7 運営者の声

<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や高校中退の参加者が多く、高卒認定合格までが目標になっていて、それ以降の進路について具体的に相談にのってあげることができない。就労に関する資料や相談先なども受講生に提供できるようにしたい。 ・関係機関からの問い合わせや紹介回数は増えたが、本人からのアクションになかなか結びついていない。予約した見学希望者が来なくて、対応する講師が待ちぼうけになることもある。 ・青少年相談センターなどと連携を深めることで、不登校生徒が受講生として参加することも予想される。彼らが参加しやすい環境をどう整えるか、どのように指導方針を講師で共通理解できるかの検討が必要になってくる。 ・未来塾に関しての情報を、中学卒業時に提供できる方法を検討したい。
--

参加者ピックアップコラム

（団体名） 豊田市青少年センター

Kさん（22歳 男性）

普通科高校に入学したが、不登校になり退学。父の友人に高卒認定のことを教わり未来塾に参加した。

生物やスポーツ関係の仕事に興味をもっている。高卒認定合格後に就職した場合、職場で上手くやっていけるのかを心配している。

優しくデリケートな性格。未来塾に参加してからは勉強にやる気がわいてきて、家でも自分から勉強できるようになった。ただ、頑張りすぎて一定期間が経つと疲れてしまう傾向があり、未来塾を長期休むことがある。

継続的に参加できるよう、声かけなどを続けて見守っていききたい。

半田地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

23 人（継続 13 人・新規 10 人）

<居住地>

居住地	半田市	碧南市	常滑市	東海市	大府市	知多市
人数	4	2	2	2	1	1
うち外国人数						
居住地	豊明市	阿久比町	東浦町	美浜町	武豊町	
人数	1	3	3	1	3	
うち外国人数					1	

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		2	8	7	2	4
うち外国人数			1			

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	7	6	5	4	1
うち外国人数	1				

その他の内訳 高校中退予定 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

高卒認定 8、PC 環境と居場所提供 4、高卒認定を生かし就職 2、
プログラミングの氷河期世代対象職業訓練校に通い修了 1、
高卒認定後進学検討 1、生活改善から高認へ変更から働くへ変更 1、
検討中 1、卒業後サポステ登録 1、生活習慣と居場所 1、
読み書き 1(1)、卒業も視野に入れ支援 1、試験対策 1

オ 参加の経緯

- ・通信制高校を休学中、学校以外で勉強したい。家でやっても分からない所の確認など。
- ・居場所的要素が強い PC スキルアップ。
- ・高卒認定資格取得から 2 年たち、大学受験を目指している。
- ・勉強のやり方が分からない等。

カ 状況、ニーズ等

- ・見学が増えているが、ここへも通えない状況の方もいる。体調不良なので、オンラインでの対策も難しい。
- ・高卒認定受験をきっかけにアルバイトをはじめられるようになった。
- ・タガログ語、スリランカ語、英語などの支援での言語の問い合わせがあった。
- ・毎日やってほしいとの要望も一部あった。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8月	3		2
11月	3		2
年間（実人数）	4		4

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
体調面で調整しながらゆっくりと自分のペースでできていて、支援員の人にはいつもお世話になっている。	別がない、このまま続いてくれるといい	支援員の方がお休み中でも温かい言葉をかけてくれたりします。ゆっくり自分のペースでやれますよ。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員（4人） ・サポステスタッフ（5人） ・臨床心理士・公認心理師（1人）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日本福祉大学 学生課にて求人掲載依頼 ・日本福祉大学社会福祉学部 教授から紹介 ・現アルバイト（学習支援員）から紹介 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・利用していただく方に寄り添えるマインドをお持ちの方を確保するために、大学の求人掲載を利用 ・学習支援員のステップアップが分かりやすい仕組みづくり 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
配架	・出張相談先 10 市町の役所、役場、近隣の社会福祉協議会、子育て支援課、学校教育課、連携団体への配架、説明	チラシを見ただけでは分かりにくい内容を説明いただける機会を増やし、ご案内いただくことが増えた。
郵送	・知多半島の全中学校、公立高校等へ	前回より枚数を多くすることで、教務主任の先生以外にも担任の先生の目に触れる機会ができたため、高校へ行く予定が入った。
会議	・各会議へ配布して周知広報	課題があっても繋がってはいないが、社会資源の一つとして希望をもっていつか行けるようにと思っているひきこもりの方がいる。

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・人員不足により、職員が集まってMTG（ミーティング）の機会は昨年度より減少。それをカバーするのに、学習記録表（スプレッドシート）、振り返りシート（紙、参加者、支援員、担当支援員がコメント記載）を使用し、利用者の情報共有を行っている。 ・今後は、準備中ではあるが学習支援を利用いただく方に「何故、勉強するのか」「何故高卒認定を受験するのか」「いまやっていることは意味があるのか」など目的を一緒に見つけられるよう面談のみでなく、キャリア教育を取り入れ、自ら考える力を付けられるよう支援する。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から学習支援に携わっているスタッフがもともと支援される側ではあったものの成長し主体性が出てきて、交流会などにも自らの意思で参加。 ・高卒認定受験者が4名であった。合格者は全員とはいかなかったが、受験者の中には通っている間にアルバイトに就くことができ、勉強と両立して頑張っていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が増えるのは良いが、対応できない場合は学習支援員以外が対応することもある。 ・体調不良を抱えながらの方も多く、自己理解を促進するうちに医療機関にリファーマーや他の施設との連携などで付き添いや時間調整、連絡やその後の共有など学習支援の開催時間外での動きが大きくなっている。 ・勉強を頑張っているけど何のためか分からなくなってしまう、頑張れなくなる。日頃からキャリア教育を取り入れ、将来について考える癖や時間をつくる必要があるのではないかと考える。

7 運営者の声

多くの方が見学に来場しても、最初の数回で来なくなってしまう方が増えてきた。運営側も支援スタッフもステップアップする時が来ているように感じている。周知も大切だが、個々に合った支援が人材不足で日によって危うくなっている。求人を大学に出して、2名追加を考えている。学習支援事業をとおして、社会性に触れていただく機会や社会性を身につけていただけるプログラムなども検討したい。更に、学習支援員の意識も少しずつアップデートしていく機会として、キャリア教育の導入を検討したい。

- ・ 半田中学校校長先生
- ・ 学校教育課（半田）
- ・ 各社会福祉協議会
- ・ 名古屋保護観察所
- ・ 半田保健所
- ・ 大府市総合相談窓口
- ・ 半田市生活援護課

I さん (22 歳 男性)

東浦町社会福祉協議会からひきこもり予備軍として I さんが繋がってこられた。家族仲は大変よく、仲良し家族であった。ひとりっこである当事者はとてもかわいがられている様子が、支援者からもうかがえた。ところが、父親が病気になり仕事ができなくなったため、家計が逼迫状況になりコロナが追い打ちをかけた。母親はパートに出るが収入は多くはない。I さんはその時高校 1 年生であったが、父親のコロナ感染による病状の悪化を恐れ、人が集まる学校や電車の中など頑なに行きたくないと言い出したとのことであった。「絶対、絶対父親にうつしたくない。」と、言って最終的に高校を退学した。そのタイミングで社会福祉協議会からサポステに紹介されたが、コロナ禍での面談も慎重を要した。外部との接点を無くさないように関わり続けるも、そんな日も長く続くと昼夜逆転。家族団らんでゲームを行うなどの生活環境からますます外に出る機会がなくなった。月に 1 度の面談での支援は、進みも遅く効果が期待できない部分を感じながらも、伴走型支援を進めるしかなく、他に方策がないか支援員は模索していた。

コロナ禍が落ち着いた後、どうしていききたいかの選択肢を含めて、高校は辞めてしまったが、高卒認定試験が受けられるよう情報提供を行った。受験資格はあり、高校へ単位修得証明書をもらいにも行ったが、その後やると決めたものの、なかなか電車に乗って通えない状況が続き、母親が仕事が休みの時に送迎してもらいながらモチベーションを落とさないようにゆっくりと進められた。

そんなある面談の日、スケッチブックに鉛筆で大好きなドラゴンボールの絵を描いたものを数枚プレゼントされた。「1 枚描くののに 8 時間程かけていたのよ。」と、母親の声。何日もかけて描き上げて感謝を伝えたかったとのことであった。嬉しいのはもちろんであるが、自らできることを考えでる範囲で伝えたいことを形にする行動力と集中力に支援員全員がびっくりした。また、その絵がとてもうまく書かれていたためにそのことをお伝えしたところ、イラストの仕事が将来できたらな〜と、本人から夢について話してくれるようになった。それをきっかけにキャリア支援を行い、目標をもち通うことにより、学習支援員とも話す機会が急速に増えていった。サポステのサークルやグループワークなどにはコロナが怖いと参加することはなかったが、明るい表情に変化する様子も見られた。コロナが落ち着き始めたころ、家計のこともありアルバイトしようと思うと本人からお話があった。気持ち前向きになり進もうという意思が感じられて、支援員も嬉しく思っていたのだが、就労支援だから何とかしてくれる、または全部の動き方を教えてくれると他力本願でのスタートとなった。自分で動かないと始まらないことに気付いていただくために、約束したことができなかった際、時にははっきりと指摘することもあった。できなかったこと、知らなかったこと、また、自分の当たり前と思っていることがいいところや強みであることの自己理解を時間をかけて行った。だらけてしまう期間もあったが、やっとハローワークへの登録までできるようになった。面接の練習では、「がんばります。」だけでは受からないことも実体験で気づいていただき、その後もいくつか応募できるようになって、受からなかったところを振り返り課題修正。現在は、郵便局の仕分け作業で働いている。週 5 日短時間ではあるが、継続 1 年以上を超え頑張られている。自分の稼いだお金で買える喜びを知り、家族にプレゼントをしたようであった。自分も嬉しく、喜んでくれる家族をみることができることがまた更に嬉しかったようで、幸せが倍になる方法を学んだご様子であった。学習支援をきっかけとしてアルバイトをするまでの意識の変化があり、働きながら 2024 年 8 月にあと一科目、受験が残っている。高卒認定試験の受験に挑戦される、そんな I さんを支援員みんなで見守り応援したい。

春日井地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

12 人（継続 6 人・新規 6 人）

<居住地>

居住地	名古屋市中区	春日井市	犬山市	蟹江町
人数	1	9	1	1
うち外国人数		1		1

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		1	8	2	1	
うち外国人数			1			

ウ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1	8	2		1
うち外国人数					1

その他の内訳 不明 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

高認資格取得 8 高校卒業 3 大学進学 2 専門学校進学 2 日本語学習 1(1)

オ 参加の経緯

他機関や地域団体からの紹介、ホームページ（県担当課）、サポートステーション、市役所からの紹介、コンビニでチラシを見て、家族や学校の先生、参加者から紹介

カ 状況、ニーズ等

- ・高卒認定試験に向けた学習支援を提供しているが、在学中の参加者や定時制高校を目指す参加者が増えている。参加者の年齢は、10 代から 20 代前半が多く、保護者が高校中退後に子供の進路を心配して学習支援に参加させるケースも見受けられる。参加者の中には、将来の目標や学習教室に参加する目的がまだ定まっていないケースがあり、学習支援の継続的な参加につながらないケースがある。将来の目標を一緒に考えながら支援を行っている。
- ・専門学校や大学進学のために、学習教室に参加している方々もいる。
- ・学習教室を相談の場や居場所として活用しているケースも見受けられる。
- ・参加者の中には、体力、精神的な安定に課題を抱えている方もいる。長期的な関わりが必要となっている。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8 月	5	3	1
11 月	2		1
年間（実人数）	7	3	2

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
一人で勉強していたら高卒認定試験に合格することは、できなかった。（20 代）	専門学校へ進学する時に学習教室を利用したい。	とにかく参加してほしい。
専門学校合格まで、寄り添ってくれて、無事に合格することができた。感謝している。（20 代）	特にない。	目標がなくても一緒に考えてくれる。参加して見たほうがいい。
勉強だけでなく、話を聞いてくれるのが良かった。（10 代）	開催時間がもっと早い	一人で勉強するよりも学習教室に参加した方がいい。参加してみてください。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7 人 ・日本語教師（1 人） ・社会人（5 人） ・元教員（1 人）
スタッフの募集方法	・春日井若者サポートステーションからの紹介 ・近隣の大学へチラシの配布や掲示
スタッフ確保のための方策	・若者サポートステーションとの連携は、有効だと感じている。 ・地域団体や市民に向けての広報活動

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の相談窓口 ・保健所の相談窓口 ・春日井地域協議会の参加団体 ・高齢者介護居宅支援事業所 ・春日井若者サポートステーション ・学校スクールソーシャルワーカー ・市民活動支援センター ・適応教室 ・社会福祉協議会 ・ハローワーク 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの継続的な配布により、対象者への情報が届き、その結果、相談や利用につながるケースがあった。 また、相談窓口を通じて対象者を紹介いただき、見学や相談、利用へとつながったケースがあった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語支援が必要な方への広報活動 ・広報活動のどこまで行うのか。
S N S	・X（旧 Twitter）での情報発信	

5 取組の工夫

- ・参加者の情報を共有するため、支援スタッフ同士が情報共有をする時間を設けている。
- ・初回面談や学習教室での様子を見ながら、参加者の状況に合わせて、教材や資料を準備し、一人一人に合わせた支援を行った。
- ・参加者の中には、家庭や就労の関係で学習教室まで通えないケースがあり、パソコンやタブレット端末を活用してオンラインの学習支援を行った。
- ・高卒認定資格取得後に大学や専門学校進学を目指す参加者が増加し、進学情報や受験情報を収集し、情報提供を行った。また、学習支援員と協力して教材を作成し、対応を行った。高卒認定資格取得後も学習支援を継続し、次のステップに進むように対応を行っている。
- ・長期欠席が続く参加者に対して、定期的に近況確認の連絡を取るようになっている。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>【運営者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べて、学習教室の参加者延べ人数が増加した。令和6年度は市役所や保健施設の相談窓口、サポステ、保護観察所から参加者の紹介があった。 ・家庭事情などで来所できない参加者がおり、そのためにオンラインで学習支援を実施した。教材や指導の工夫を行い、結果的にオンライン学習教室の参加者が増加した。 ・学習教室の参加者が高卒認定資格取得後に学習支援員として活躍しているケースも見られた。 <p>【支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験では、合格者が3名、一部科目合格者が2名となった。 ・高卒認定試験終了後に専門学校や大学進学を目指す参加者に対しても、しっかりとサポートできた。専門学校を受験した参加者は、無事に合格することができた。 ・日本語教室の参加者の内、定時制高校に合格することができた。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に参加する目的が多様化（居場所、進学、在学中）、支援方法などの工夫が必要。 ・日本語教室は、さらなる地域への広報活動が必要。 ・日本語学習教室の学習支援員確保（日本語）。 ・参加者本人やご家族の体調不良等による長期欠席者への学習支援の方法や働きかけ。
----	---

7 運営者の声

令和5年度において、相談窓口やサポステ、保護観察所の紹介やホームページを通じて学習教室に新規で参加する方が増えた。一方で、昨年度から参加している方の中には、様々な理由（体調、仕事とのバランス、学習意欲等）で長期欠席となっている参加者もいる。定期的に近況確認をしているが、これらの参加者には長期的なサポートや働きかけが必要と感じる。参加者に少しでも学習の楽しさや喜びに気づいてもらう、学習教室が居場所となるように運営したいと考えている。

参加者の年齢層は、10代から20代前半の方が多く、大学や専門学校進学を目指す参加者や在学中で卒業を目指す参加者など、学習の目的が多様化している。学習支援員との協力のもと、学習目的に合わせた効果的な支援が提供できたことは、大きな成果と感じている。

令和5年度からは日本語学習支援も始まったが、参加者が少なく、周知活動に力を入れる必要性を感じている。今後は積極的な広報や周辺のコミュニティとの連携強化を通じて、さらなる参加者の拡大を図っていきたい。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

Aさん（20代 女性）

2019年度から学習教室に参加し、2021年度に高卒認定試験に合格しました。学習教室に初めて参加したころから、看護師になりたいとの希望があり看護学校進学を考えていました。

学習教室卒業後は、アルバイトをしながら勉強を続けていたが自習をする環境がないとのことで、2022年度から再び学習教室に参加するようになりました。

学習教室では、受験科目を中心に学習支援を行い、願書など学校の提出書類も一緒に確認しながら支援を行い、無事に看護学校に合格することができました。看護学校合格後も学校の授業についていけるように学習教室に継続して参加している。

Bさん（10代 女性）

2022年から学習教室に参加、2023年度に高卒認定資格を取得しました。学習教室参加当初は、通信制高校に再入学するか、高卒認定試験を目指すのか悩んでいました。目標を決めてからは、学習教室以外でも必死に勉強し、無事に合格することができました。高卒認定資格取得後は、大学に進学を目指しているが、「アルバイトをしてみたい。」という話があったので、法人が運営する別の学習支援に支援員として加わりました。

これまでの自身の経験をもとに学習支援の参加者に寄り添い、なくてはならない存在となっている。

一宮地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

18 人（継続 1 人・新規 17 人）

<居住地>

居住地	一宮市	犬山市	江南市	稲沢市
人数	13	1	1	3
うち外国人数	6			2

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		4	7	2		5
うち外国人数		1	4	2		1

ウ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	5	6	4		3
うち外国人数	3	1	1		3

その他の内訳 不明 2(2) 中学在学 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

高卒認定試験を受ける 5(1)、出来れば大学に進みたい 2(1)、介護職希望 1、
 高校のレポートに対するサポート 1、日本語の読み書きができるようになる 1(1)、
 日本語の読み書きができるようになり、高校に進学したい。 1(1)、
 日本語の読み書きができるようになり、中学の勉強が分かるようになりたい 1(1)、
 日本語の読み書きができるようになり、就職したい。 1(1)、
 正看護師の資格を得るための学校に行くために高卒の資格を得たい。 1、不明 1

オ 参加の経緯

- ・ 中学・高校の学校の先生の紹介
- ・ 市内の不登校の親の会からの紹介
- ・ 市の行政機関からの紹介
- ・ 当教室参加者からの紹介
- ・ 市のホームページを見て参加
- ・ 子どもが通う病院内に掲示されていた募集チラシを見て参加

カ 状況、ニーズ等

- ・開設4年目を迎えて、地域協議会の会議を積み重ねることで、学習支援センターの認知度も少しずつ高まったと感じます。結果、市の様々な行政機関や外郭機関からの紹介が増えてきた。
- ・4月当初、令和6年度からの高卒認定試験の科目の変更に伴い、定時制高校からの紹介で二人の高校生が通い始めた。幸い、在籍高校の教員がサポートすることになり、当センターには通わなくなった。科目の変更に伴う影響の大きさを感じた。
- ・現地で中学を卒業して来日する外国籍参加者が増えている。学ぶところがなく、当センターを市から紹介されてくる。経済的な負担を負うことなく利用することができるので頼ってくる状況がある。
- ・今年度は、高校を中退してかなりの年数を過ぎてから高卒認定試験を目指す人が増えた。学び直しや、高卒認定試験合格をきっかけに上級学校への進学を目指すケースがある。通う姿勢も積極的で、継続している。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8月	2		
11月	1		
年間（実人数）	3		

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
勉強する教科が自分で選べるので楽しく参加している。（10代）	特にありません。	中学、高校とまともに通わず、働いてばかりいました。日本は学力社会です。週2回の2時間の勉強で高卒と同じぐらいになると思います。もし、いい所で働きたいならオススメです。
年齢層が幅広いので色々な経験を聞くことができる。（50代）	週2回ですが、もう少し回数を増やしてほしい。	図書館の広い一室の落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができ、場所も一宮駅に隣接した所にあるので交通も便利です。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・現役大学生（5人） ・日本語教室のスタッフ（1人） ・退職教員（3人）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学習支援スタッフからの紹介 ・元の職場への依頼・声かけ 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・知人を介しての勧誘 ・一宮市市民活動支援センター内での募集チラシの掲示 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
案内チラシ	・一宮市役所とその外郭団体	<ul style="list-style-type: none"> ・市のHPを見て参加する ・青少年センターから紹介あり ・病院に掲示されたチラシを見ての参加あり
	・近隣市町村とその外郭団体	・以前、通っていた塾の先生の紹介で参加のケースあり
	・一宮市立図書館や近隣の図書館	・チラシを見ての見学者あり

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍参加者に対して、ポケトークやスマホの翻訳アプリを活用した。 ・外国籍参加者の増加に伴い、日本語指導の経験のあるスタッフを確保した。
--

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の経験のあるスタッフが増えたことで、外国籍参加者への対応がしかりできるようになった。 ・地域協議会も回数を重ね各機関との繋がりも深まり、相談しやすくなった。結果、いろいろな機関からの紹介が増えてきた。 ・参加者同士の結びつきが深まり、お互いに相談しあう雰囲気が出てきた。将来の進むべき道を見つけた参加者もいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本国で中学を卒業してから来日する外国籍参加者の中で、日本の高校受験をする上で言葉（特に学習言語）の壁が大きな負担になり、途中で欠席が多くなるケースがある。また、保護者や本人の地域行政の知識が十分でないため、本来、受けられるべき行政サポートに繋がられない。 ・教室設置地域は中学生の不登校の数も増えている地域であるが、在籍時や卒業後に彼らと繋がるのが十分できていない。 ・火曜日の教室終了が19時30分と遅いため、スタッフの確保に苦勞している。また、現役大学生のスタッフは大学の授業との関わりで急にキャンセルが生じることがあり毎回のスタッフ確保に気を遣う。

7 運営者の声

4年前の開設当初に比して、利用者の数が大幅に増えた。しかも継続するケースが増えている。学習支援に繋がるケースも多彩になり、本事業の学習支援が地域での認知度が増してきた実感をもつ。

6月になると、外国籍の利用者や見学者が増える。日本の中学に入学する場合、中学校でネイティブな先生からの指導を受けることができ、日常会話のみならず学習言語の理解に役立っている様子が分かる。ただ、出身地と日本でのカリキュラムの違いがあり、長期休みの課題等に負担感を感じている。我々がサポートするには時間がない。

中学時代は不登校であった利用者の中に、外国籍の人に日本語を教えることに興味を持ち、学習支援スタッフのお手伝いをするようになる。熱が高じて、自ら他の機関の講習を受け、将来は日本語指導を目指すために上級学校に進学したい気持ちになるなど自分自身の生き方に目覚める人が出てきた。高卒認定試験合格のための学習支援が主たる目的で設置されている訳だが、+αの役割を当センターが果たした気がする。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人あいち・子どもNPOセンター

Aさん(50代 女性)

学習会に参加することで自分の目的とする進路についても指導してくれたり、繋がりのある人たちとも情報を共有することができて、私にとって自分の目的のアドバイスとなっています。

また、年齢層の幅が広いこともあって、その人たちからいろいろな経験を聞かせてもらうことで自分にとって人生の指針になっています。

Bさん(10代 女性)

勉強が苦手な私でもとても分かりやすく教えていただき、毎回、ほど良い課題をだしてくださります。分からないことも分かるまで教えてくださるのでとても安心です。

勉強する教科も自分で選べるのでその日にやりたいことができて楽しく参加させてもらっています。

蒲郡地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

32 人（継続 17 人・新規 15 人）

<居住地>

居住地	豊橋市	岡崎市	豊川市	蒲郡市	幸田町
人数	1	2	7	16	6
うち外国人数					

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		8	16	4	1	3
うち外国人数						

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	5	4	10	3	10
うち外国人数					

その他の内訳 中学校在学 8 大学中退 1 専門学校卒業 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。）

進路相談 6、中学の学習補助、進路相談 5、高校の学習補助、進路相談 4、
よりよい条件での就職 4、学習補助、進路相談 3、高卒認定試験 3
大学進学、保護者の相談が多い 1、進路相談（保護者が多い） 1、
よりよい条件での就職。不合格科目の高卒認定試験を受ける予定。 1、
学習補助 1、大学進学のため 1、専門学校へ進学のため 1、進学のため、進路相談 1

オ 参加の経緯

定時制通信高校説明会、紹介（中学校、あすなろ教室、サポートステーション、サポートステーション利用者、学習指導スタッフ、北斗寮スタッフ、生活支援センター）
インターネット、母親からの相談、チラシを見て、親の勧め、知人からの紹介、スクールソーシャルワーカー

カ 状況、ニーズ等

- ・ 中学校を不登校で学習に参加していた生徒が、定時制高校、通信制高校に進学したが、継続して来所し学習している。
- ・ 中学校卒業後に進路未決定の者が、高校進学を目指して学習に参加。

- ・高校中退後、高卒認定試験の資格取得を目指して学習に参加。
- ・中学校不登校のため、学習支援を利用し所属する学校では出席扱いになっている。
- ・就労支援を受けていた者が、資格試験などを取得することになり、学習に参加。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8 月	2		2
11 月	2		1
年間（実人数）	2		2

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
・色々な英語を教えてもらい、けっこう得意になった。		・何もしないなら学習した方がいい。
・自分のレベルに応じ学習や自分の勉強したい学習を個人に合わせてしてもらえるので、とても助かっている。	・時間や曜日の枠が増えたら、もっと多くの人が来やすい。	・人と比べられず、個々に合わせた学習を教えてもらえるので、参加しやすいと思う。
・いろいろな勉強を教えてくださいののですが、毎度分かりやすい説明で、勉強が自然と身に付いて感謝しています。		

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3 人	<ul style="list-style-type: none"> ・塾講師経験者(教員免許保有) (1 人) ・元役員(教員免許保有) (1 人) ・若者自立支援経験者 (1 人)
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・サポステスタッフからの紹介 ・チラシを見て活動に興味をもって応募 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育 OB の知り合い ・サポスタッフの知り合い 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布、又は訪問による説明等 (来所も含む。)	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者 ・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者 ・蒲郡市内図書館 ・豊川市内図書館及び生涯学習センター ・市内の中学校(7校)(訪問) 	<p>各機関・団体の責任者、又は担当者レベルでの事業の周知ができた。昨年度より各機関等からの紹介が増えた。</p> <p>利用者の悩み事(進路相談等)を受けているうちに、関係する学校や機関へスタッフが外向いて話をするこゝもあつた。その際、各学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた事例もあつた。「こんな事業があることを知らなかつた。」という声が多かつた。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者未来応援協議会(豊川市、蒲郡市)2箇所 	協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者レベルでの顔合わせができた。
蒲郡市地域学校協働活動にスタッフが参加して説明	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡中学校において地域学校推進活動として保護者向けの定時制・通信制高校の説明を行った。 	学校と地域のつながりに寄与した。また、そこで本事業を知つた親子が通所につながつた。

5 取組の工夫

利用者のニーズに合わせた1対1の個別指導をしている。

学習に苦手意識がある場合、学習だけではなく、コミュニケーションの場にもしている。

- ・利用者一人一人に学習記録ファイルを作り学習内容を記録している。(両方)
- ・学習の進捗状況と正答率の低いカテゴリーの共有化により、重点学習を効果的に進めている。

予約制の個別対応なので、一人の利用者を支援スタッフ2人で担当し、フレキシブルに予約を入れられるようにした。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験 科目合格者 8月2名 11月1名 ・夜間中学校へ入学 1名（日本語） ・登校困難者の学習支援の際に、相談にのっていた結果、年末になって2週連続して登校できるようになった。 ・支援内容に学習があることの周知により学校に通う年代の利用者がふえた ・継続して学習に来ていた生徒が高校に入学し、心身ともに安定した。 ・進路未決定の利用者に目標ができ、それに向かって学習に取り組めるようになった。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を重ね、機関や団体等からの紹介もあり、より必要な方へ支援がつながるようになった。 ・学習支援の周知により、高校を退学しそうな状態、進路未決定で中学校を卒業した方からも機関を通さず直接、連絡が来るようになった。 ・中学校との連携により、今年度も蒲郡市と豊川市の各学校の校長先生の判断において、学習参加が不登校生徒児童の出席扱いになっている。
課題	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路相談を受けることがあるが、必要な情報を持ち合わせておらず、十分な対応ができずにいる。 ・スタディサプリアを活用したいが、うまく活用できていない。動画のようにテンポ良い解説についていけない生徒はスタディサプリアの利用が一回で終わってしまう。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験を受験する利用者が少ないので、無料で学習できることを周知する必要がある。 ・定時制、通信制高校に在籍する生徒が増える中、そのような生徒への学習支援はますます必要になっているが、周知が不十分である。 ・高卒認定試験や高校受験に挑戦する利用者や日本語の上達を望む外国人からは、「もっと勉強したい」との声があるが、予算の都合により開催日時（学習の枠）が限られてしまい応えることができていない。 ・経費（報償等）のほとんどは学習支援員の学習業務に当てられることが多い。相談や必要とする関係機関等へつなぐ場合、がまごおりサポートステーションに一度リファーして、サポートステーションのスタッフが各機関（学校、医療、福祉等）へ同行支援やリファーを行っている。本事業の経費の中で「つなぐための業務」の経費を捻出するのはなかなか難しい状況である。他機関、団体等との連携は不可欠である。

7 運営者の声

令和2年度から愛知県教育委員会委託事業を受託し、実施させていただいています。若者支援には、各関係機関と連携する必要性・重要性を強く感じています。関係機関・団体の方々の平素からの御理解と御協力に感謝いたします。これまでの支援ネットワークとノウハウが今後も本事業をとおして悩める若者の支援に役立てていきます。

不登校やひきこもりは増加傾向であるものと思います。本人だけでなくその保護者も悩んでいる状況です。どこに何の支援を受けたらいいのかも分からない状況は不安だと思います。本事業でも保護者との面談を行っており、今の状況を整理して今後のことを一緒に考えていきます。少しでも安心な気持ちになってもらえたらと思います。

本人にとっては「学習を切り口」に一步進める場所となっています。今年も、中学生、高校生から学習支援に参加した子が次のステップ（就職等）へ行くこともできました。とてもうれしく思います。地域若者サポートステーションという場所で学習支援を行っているため、就労支援を同じ場所で受けることができます（サポステヘリファーストとなります）。「まだ就職は考えられない」「もう一度勉強してみたい」「何をすればいいか分からない家にいても不安」と利用者さんのおかれた状況は様々ですが、次のステップへの「居場所」となっていると感じます。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 青少年自立援助センター北斗寮

Aさん(10代 女性)

中学で不登校になったのをきっかけに、定時制・通信制高校合同説明会に保護者と参加して、この事業のことを知った。

週1のペースで中2、中3と継続して学習に参加し、今年度は通信制高校へ進学した。

高校生になっても定期的に来所して学習している。

アルバイトを希望したので、サポートステーションの支援でハローワークへも行き、働き始めた。中学生の時は、食欲がないなど心身が不安定であったが、アルバイトで体を動かすようになると、体力がついたようで顔色もよくなった。高校の勉強も順調にこなし、精神的にも安定してきた。高校卒業後についても、前向きに自ら考えている。また、アルバイトをしたことで対人関係についても学び、他人と接することへの苦手意識がかなりなくなったと言っている。

愛西地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

11 人（継続 5 人・新規 6 人）

<居住地>

居住地	名古屋市中区	愛西市	弥富市	蟹江町
人数	2	3	2	4
うち外国人数		3		3

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数	1		6			4
うち外国人数	1		4			1

ウ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	3	4	1		3
うち外国人数	2		1		3

その他の内訳

中学校在籍 1(1)、利用者の保護者 1(1)、不明 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

日本語学習のため 6(6)、高卒認定試験資格取得 4、職業訓練校進学 1

オ 参加の経緯

- ・地域団体、関係機関からの紹介。
- ・県ホームページやチラシを見て参加した。
- ・職場の同僚からの紹介。

カ 状況、ニーズ等

- ・国家資格取得のため、高卒認定資格を取得したい。
- ・専門学校進学（保育士）のため、学習教室に参加している。
- ・高校在学中だが、留年する可能性があるため、学習教室に参加した。
- ・仕事で使える日本語を勉強したい。
- ・日本語を勉強したい。
- ・定時制高校や大学に進学するため。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8 月	2		1
11 月	1	2	
年間（実人数）	2	2	

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことが ない人に対するメッセージ
高卒認定試験を無事に合格することができた。感謝している。（50代）	特にない。	とにかく参加してみてほしい。
学習支援に参加して、高卒認定試験に合格することができた。（10代）	特にない。	参加すると雰囲気がわかるので、参加してほしい。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6 人	・元教員（1人） ・社会人（5人）
スタッフの募集方法	・若者サポートステーションでの募集 ・地域団体からの紹介	
スタッフ確保のための方策	・若者サポートステーションでの募集は、有効に感じている。 ・地域協議会のつながりからの紹介	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会 ・市町村の相談窓口、担当課 ・保健所の相談窓口 ・津島公共職業安定所 ・愛西地域協議会の参加団体 ・つしま若者サポートステーション ・図書館などの公共施設、支所 ・愛西市社会福祉協議会 ・弥富市社会福祉協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談や利用に繋がったケースがあった。 ・スクールソーシャルワーカーの方からの問い合わせがあった。
事業説明	<ul style="list-style-type: none"> ・海部地域の社会福祉協議会の方々への事業説明の場をつくっていただいた。 ・弥富市民生委員児童委員会長連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会に社会福祉協議会も参加いただいた。
SNS	・X（旧 Twitter）での情報発信	

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・体調が不安定で配慮が必要な参加者もあり、学習支援員間で定期的に利用者状況を共有する時間を設けた。 ・外国籍の参加者は、当法人が行う春日井地域の日本語教師の方に協力を仰ぎながら、支援を行った。 ・参加者の希望科目に合わせたマンツーマンの支援を行った。 ・学習支援員自身の学習と教材準備の時間を取った。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>【支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験合格者、全科目合格2名、一部科目合格1名となった。この結果に学習支援員も自信をつけることができた。 ・外国籍の方への日本語学習と定時制高校進学への対応をすることができた。 ・高卒認定資格取得後に大学を目指していた参加者が無事に合格することができた。 ・参加者にとって安心できる居場所となるように学習教室で季節感をだした。 <p>【運営者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の日本語教室と連携して、参加者の学習支援を行うことができた。 ・地域協議会のつながりから、通訳ボランティアを紹介いただいた。 ・海部地域（広域）での協議会開催
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・海部地域での周知、広報活動 ・参加者本人やご家族の体調不良等による長期欠席者への学習支援の方法や働きかけ ・連絡の取れない参加者のフォロー

7 運営者の声

令和5年度、愛西地域では外国にルーツをもつ方の参加が増加した。学習教室では、日本語学習に加えて学校の勉強や高校入試対策（面接、作文）を行い、その際には地域の日本語教室とも連携して対応を行った。

高校入試に関しては、外国籍の方が受験制度や学校についての情報をもっていないケースがあり、こちらで情報収集と説明を行った。今年度は母語が英語の方が多く、これに対応できたものの、他の言語にも十分に対応するためには、支援員やボランティアの協力が必要だと感じている。

令和5年度の参加者の中には、以前に学習教室に参加し、進学したものの定時制高校中退してしまった方がいた。そのため、定時制高校に進学した後も支援できるような取組があれば良いと感じている。

参加者ピックアップコラム

（団体名）労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

Aさん（50代 女性）

2022年度から学習教室に参加、社会福祉士を目指す過程で、高卒認定資格取得と学び直しを目的に学習教室に参加されました。2023年度も第2回高卒認定試験合格を目指して勉強に励み、無事に合格することができました。

Bさん（10代 女性）

2023年度から学習教室に参加、日本語学習を目的に支援を進めてきました。将来、勉強を教えたいという目標があり、定時制高校進学を目指すようになりました。日本語学習の他に数学、作文、面接の練習に取り組み、無事に合格することができました。

知立地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

14 人（継続 6 人・新規 8 人）

<居住地>

居住地	西尾市	安城市	碧南市	高浜市
人数	1	3	2	1
うち外国人数				
居住地	知立市	刈谷市	大府市	名古屋港区
人数	2	3	1	1
うち外国人数				

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		3	7	2	2	
うち外国人数						

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数		3	5	1	5
うち外国人数					

その他の内訳 中学在学 3、大学在学 1、専門学校卒業 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。）

学習の補助 4、高校進学 3、大学進学 2、英検 2 級取得 1、高校編入 1、
高認取得 1、大学の勉強 1、不明 1

オ 参加の経緯

先生の紹介、支援機関の紹介、友人、親からの紹介、居場所のスタッフらの紹介
市役所の紹介、チラシを見て、国際交流団体の紹介

カ 状況、ニーズ等

- ・若者・外国人未来応援事業の目的の柱が、高校卒業程度認定試験の取得にあるが、知立の未来塾では、その目的で来所するものは、ほぼ皆無で、定時制高校、通信制高校の学習の補助、高校入学のための学習が中心となっている。
- ・高卒認定の受験ができるというのは、ある程度、学力やバイト力がある利用者ではないかと想像する。実際 1 月末の情報交換会では、高卒認定取得後の就労に向けて、キャリア教育の

導入が話題にされた。その時も意見を述べたが、知立の学習支援はその前段階の支援をしている。まずは、高校に入学しよう、せっかく入った高校だから、やめずに卒業しようという支援である。

キ 高卒認定試験

実施時期	受験者	全科目合格	科目合格
8 月			
11 月			
年間（実人数）	0		

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
先生たちがやさしい。（10代）	分からないところあったら、他の人にも聞けるといいなと思います。	先生たちは優しくて学ぶことがいっぱい。
外国の人と交流できてうれしい。（10代）	もっとみんなが交流できるといいなあ。	みんないい人なので、ぜひ来てください。
自宅よりも勉強に集中できる。ここでは友だちができてにくい。（20代）	英語圏から人が多いので、英会話で会話がしたい。	学校の課題だけではなく、社会人の資格勉強もできます。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	9 人	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の支援員（4人） ・元高校教諭（1人） ・家庭教師の経験のある理系大学院卒（1名） ・臨床心理士、元高校教諭（1人） ・コーディネーター（2人）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。 ・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す。 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる。 ・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町の若者支援の団体、子若の協議会の委員。 ・親の会主催の進路説明会の参加者 ・ぷらっとほーむのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。 	パンフレットのデザインは評価される。それを見ての参加者あり。
S N S	<ul style="list-style-type: none"> ・ X (Twitter) ・ Instagram での広報 	フォロワー数： X…198 人、Instagram…211 人 ※見ている人数は増えている
W e b サイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ぷらっとほーむW e b サイトでの広報 	N P O の活動の一つとして、団体に興味のある人たちに周知されている。
公式 L I N E	<ul style="list-style-type: none"> ・未来塾の利用者 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。 ・利用者から欠席の連絡が入るようになった。 ・スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。

5 取組の工夫

- ・学習の成果が定着するように、宿題を出すなどをしている。
- ・利用者ごとにファイルを用意し、定期的に指導者のスタッフ会議を実施し、利用者の病気障害や、学習の進捗情報を共有し、利用者のニーズに合わせた指導を考えている。
- ・利用者同士が交流しやすい、雰囲気づくりをしている。
- ・在籍している高校と連携をとり、テスト範囲や追試の内容を聞いて、教えている。
- ・利用者の抱える諸事情（持病、家庭環境、性格特性等）は、信頼関係が築けるまでは、ある程度知っていても、こちらか、尋ねないようにしている。ただし、利用者のニーズは早めにおさえ、フィットしそうな教材をいくつか、複数用意するようにしている。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none">・利用者が通う学校の情報を聞き、定期テストの対策を行い、追試回避、追試クリアにつながった。・利用者同士でゲームや会話をを行い、交流ができた。利用者が交流したいという思いをもつようになった。・勉強を教え、雑談をする中で、利用者が明るくなり、日常生活の話をしてくれるようになった。・刈谷市の子ども若者総合相談窓口のケースと連携を取り、利用者の支援の一環として学習支援の場が役立った。・在籍する高校の学年末で追認考査になることなく、全部単位をとることができた。・信頼関係が築けるようになると、個人的なことも積極的に話してくれるようになり、学習面でも、あれがしたい、これがしたいと積極的に要望してくれるようになる。また、休みがちだったのが、来る機会が増えるようにもなった。
課題	<ul style="list-style-type: none">・指導者が足りないので、これから人数が増えることで、一人一人に十分に対応することが難しくなる。・指導者の年齢高く、長く従事できず、退職された場合、次の指導者の確保が難しい。・利用者の通っている学校との連携が難しい。・利用者に関する情報共有の仕方が難しい。一人一人の進捗状況が、その都度一目で分かるようになるとよい。・事務所での支援の課題として、利用者の人数が少なく、学習者同士のピア・ラーニング¹の機会がない。

7 運営者の声

- ・指導者の先生たちが、教材を作成し、連絡を取りあうなど、丁寧に利用者の支援をやってくれているので、十分な報償費を支払うことができたらと思う。
- ・公式LINEを使い、休みの連絡や、運営からのお知らせが効果的にできている。また担当の先生が不在でも、やることが分かりやすくなった。

¹ 対話をとおして学習者同士が互いの力を発揮し協力して学ぶ学習方法

名古屋地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

2人

＜居住地＞

居住地	名古屋市港区	名古屋市名東区
人数	1	1
うち外国人数	1	

イ 国籍

国名	ヨルダン
人数	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数			2			
うち外国人数			1			

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1		1		
うち外国人数			1		

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

認定試験合格 1(1)、高校進学 1

カ 参加の経緯

- ・他機関（YWCA、国際交流協会）からの紹介

キ 状況、ニーズ等

- ・定時制高校と併用しながら単位習得を目指しているケース
- ・日本とルーツのある外国を往来するために十分な義務教育を受けられなかったケース

2 参加者の感想・メッセージ

特になし

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	14 人	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生、大学院生（9 人） ・元教員（3 人） ・法人スタッフ（2 人）
スタッフの募集方法	・スタッフによる知人・後輩等の紹介	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり） ・大学等への広報 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共機関、図書館	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ
地域協議会・研修等	・若者支援団体等	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> ・N5～N2レベルのテキストを揃え参加者の状況に応じて活用するほか、小学校レベルの漢字や簡単な文章など、日本語話者で読み書きの支援を必要とするニーズにも対応できる体制

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	・外国にルーツをもつスタッフ等による外国語対応（運営者）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの掘り起こしと、どこまでの対応を行うのかの線引き（運営者） ・同一参加者の学習支援と日本語支援の区別・カウントをどのように行うか（運営者）

7 運営者の声

<p>日本語支援としてのニーズを明確にした対応が参加人数等の数値として現れにくい状況である。しかし、本人から国籍やルーツ等の開示がないため特定はできないものの、学習支援の参加者の中にも潜在的・無意識的に日本語支援を行っているケースがあるようにも思われる。</p>

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人あいち・子どもNPOセンター

Dさん（18歳 女性）

中卒で来日して、定時制高校への進学した。認定試験の合格を組み合わせることで、定時制高校の早期修了を目指している。

豊橋地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

8 人

<居住地>

居住地	豊橋市	ペルー	不明
人数	6	1	1
うち外国人数	4	1	1

イ 国籍

国名	ペルー	日本	不明
人数	5	2	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数	1	2	4	1		
うち外国人数	1	1	3	1		

エ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数			4	1	3
うち外国人数			3	1	2

その他の内訳

中学在学（外国人学校ではない） 1、小学校在学中 1(1)

ペルーの大学に在学中。去年まではオンラインで日本から通っていた 1(1)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

日本語の支援 3(2)、日本での生活のため 2(2)、

日本語力と学校の授業のサポート両方が必要とされている 2、

ペルーは母国だが家族が日本にいる。将来的に日本に戻る可能性あり 1(1)

カ 参加の経緯

外国人コミュニティ間の口コミ

キ 状況、ニーズ等

- ・家庭で日本語を使わないために子供の日本語力、及びその他科目が（日本生まれであつても）徐々に遅れていく状況をどうにかしてほしいという保護者からの相談

2 参加者の感想・メッセージ

特になし

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5人	・支援経験者（4人） ・通訳（1人）
スタッフの募集方法	・現在募集は行っていない	
スタッフ確保のための方策	・関係機関のネットワーク	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・ココエール等、市の関連機関	
インターネット	https://npoimakara.org/gakusyu/gakusyuu.html	
外国人 コミュニティ	・外国人の生活相談	多数の参加表明があった

5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地の外部講師（通訳）とリモートで繋がるためにタブレットを利用 ・スタディサプリは便利だが日本語学習支援に直接役立てることは難しい。補助的に利用。 ・クイズアプリなどを用いている。 ・基本的な文法書や問題集もあるが、未成年の利用者などはずっと同じことをしていると飽きてしまうので、例えば理科や歴史などの教科と日本語の学習をミックスしながら学んでもらえるように心がけている。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法から分からないという利用者もいたが、日本語能力検定N4を目標とすることができた。基本文法さえ分かれば、単語などは自分で調べられるというところまで寄り添うことができた。 ・日本語の学習支援を軸としながら、通訳をとおして保護者の生活相談に乗ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを介して日本国内の外国人同士のコミュニティがあるため、本事業の利用者の知り合い（大阪在住）がリモートで学習に参加する可能性があったが、見送りになってしまった。複数の人が同時に喋る教室の中でオンラインを用いた学習は難しい。

7 運営者の声

通訳を介して外国人の保護者の相談にも乗ることができたという点は実績と言えるが、保護者自身に日本語を勉強している時間的余裕がない。加えて、当地域では基本的には小学生を支援対象としておらず、中学生以上を利用者として募集している。このため、小学生に日本語を学ばせてほしいという保護者からのニーズに答えることができず、国際交流ハンドブックを用いて関係機関を紹介した。県内には「幼児～小学生も対象にした日本語教室」があまり多くない。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人 いまから

Zさん(15歳 女性)

Zさんは日本の学校に通っていますが、家庭で日本語を使わないために徐々に日本語の読解、会話の能力が遅れていました。一般的な意思のやりとりに問題がなくて文法や語彙に多少の甘さがあると、少しずつコミュニケーションが困難になっていきます。

どのような方針で、学校の学習のサポートをしながら日本語学習の支援をするべきか、ということを支援員同士で話し合いました。

役に立つ市販の本は少ないです。通常の外国人を対象とした日本語学習本でもフィットしないし、また色んな出版社から出ている「中学生なら覚えておきたい表現」などの本は慣用句や諺が多く、通常の中学生にどの程度の語彙力があるのかなどを総合的に確認する方法がありませんでした。いくつかの本を組み合わせながら、単語力を鍛えていくという手法をとりました。

1人で勉強する方法を確立したという点が成功例だと思います。

豊田地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

10 人

<居住地>

居住地	豊田市
人数	10
うち外国人数	8

イ 国籍

国名	ブラジル	ペルー	中国	ネパール	日本
人数	4	2	1	1	2

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		6	2	1		1
うち外国人数		4	2	1		1

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数		1	1		8
うち外国人数		1	1		6

その他の内訳

中学校在学 5(3)、小学校在学 1(1)、不明 2(2)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。）

学力補充・成績向上のため 6(4) 大学進学 1(1) 日本語学習 1(1)

ブラジル人小学生に簡単な勉強を教えたい。1(1) 不明 1(1)

カ 参加の経緯

青少年センターのちらし 友人知人、高校の先生、T I A (国際交流協会)の紹介
青少年センターX(旧 Twitter)

キ 状況、ニーズ等

- ・高校を中退し、サッカーで海外のクラブチームに参加していた。スポーツ関係の仕事に就職するために大学進学を希望している。

- ・以前から病気や病気の原因、人体などをナノスケールの世界から学びたいと思い続けてきた。家族の反対を押し切っても大学に入りたいと強く思っている。
- ・妹が不登校（自分もその傾向がある）で勉強が遅れてしまうため一緒に通い始めた。自分自身の大学受験に向けた学習をしている。
- ・学力が高く、特に数学は県内難関校クラスの力がある。日本語の読解力のみ低いことで、学力に見合った高校に進学することができなかった。高校で満足できるレベルの授業が受けられないため参加している。
- ・日本語が苦手で学力が向上しない。高校に入学したい。

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
勉強についていろいろなアドバイスをもらえる… (20代)		無料で教えてもらえる。
一緒に勉強する友だちがたくさんできた… (10代)		国や年齢の違う人と友だちになってお話しできる。
高卒認定や将来の人生設計等について相談にのってもらえてうれしかった… (20代)		先生たちはすごく優しくて、様々な分野のことをいっぱい教えてくれます。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・教員（1人）日本語教育 ・教員OB（4人） ・大学生（1人）
スタッフの募集方法	・教員OBの口コミ	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員OBの口コミ（指導教科を絞って募集） ・未来塾卒業生への声かけ ・インターンシップ参加者への声かけ 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・公共施設、国際交流協会他関連団体	紹介ケースが増えている
説明会	・市内公立高校校長会	退学前に情報を届けられる
HP や X(旧 Twitter)	・一般市民	

5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> ・講師のほとんどが教員と教員のOBであり、過去の経験を生かしながらマンツーマンで指導している。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・大学合格2名、高校合格者2名。 ・高卒認定試験に合格し、大学にも合格できたことで、夢に向かって一步踏み出すサポートができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツをもつ受講生に対して、高校の古文や漢文を指導ができる教員確保が難しい。 ・大学入試試験に必要な学力レベルや進学後の費用などについて、高校に在学していないと正確な知識を得ることが難しくなる。現在の大学難易度や奨学金のシステムなど、正確で分かりやすい資料をどのように準備するか。

7 運営者の声

- ・受講生のレベルに合わせた指導を粘り強く続けたことで、高卒認定だけでなく、大学や英検準2級等の受験につながり始めている。
- ・講師がプライベートな相談にも丁寧に対応することで、未来塾が「心のよりどころ」にもなっている。
- ・講師が中心になって受講生間のコミュニケーションをとるようにしている。仲良くなった受講生同士で教え合う姿が見られ、国籍や家庭環境を越えた理解を育むことができた。
- ・教員OBの講師が受講生に真摯に向かい合う姿は、大学生スタッフが人との付き合い方や将来の働き方を考える良い刺激になっている。
- ・いつも同じ講師が同じ受講生の対応ができるわけではない。ここでの学習の進み具合や受験手続の進み具合などを共有できる学習記録簿の見直しを行っている。
- ・講師が全員揃っての懇談会を実施し、問題点や改善点の共通理解ができるように図った。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 豊田市青少年センター

Fさん（25歳 女性）

中学卒業後、通信制高校に入学したが中退。

英語が得意なので、未来塾では中高生の宿題を見てあげるなど面倒見がよい。

大学に進学したいと思う本人の意思と、子供の進学に必要性を感じていない両親との思いが違っている。家族からの支援が得られず、受験や進学の費用をアルバイトで工面しなければならない。そのため、本人の学習意欲は高くても勉強時間を十分に確保できない。

非常に頑張り屋さんで、初めての高卒認定試験では9科目を受験し5科目に合格した。日本語力向上のため、漢字検定試験にも挑戦を始めた。

オーバーワークにならないようアドバイスしながら、夢を叶えるためのサポートを続けたい。

春日井地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

1 人

＜居住地＞

居住地	蟹江町
人数	1
うち外国人数	1

イ 国籍

国名	スリランカ
人数	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数			1			
うち外国人数			1			

エ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数					1
うち外国人数					1

その他の内訳 不明 1(1)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

日本語学習のため 1(1)

カ 参加の経緯

・保護者の会社の同僚からの紹介

キ 状況、ニーズ等

・日本語の学習

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことが ない人に対するメッセージ
学習教室の助けなしに高校に合格することは、できなかった。とても感謝している。(10代)	日本語学習を続けたい。	雰囲気が良いので参加してみたい。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	2人	・日本語教師（1人） ・社会人（1人）
スタッフの募集方法	・若者サポートステーションからの紹介	
スタッフ確保のための方策	・地域の団体からの紹介、市民への呼びかけ ・日本語支援員講座への参加	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の相談窓口 ・保健所の相談窓口 ・春日井地域協議会の参加団体 ・高齢者介護居宅支援事業所 ・春日井若者サポートステーション ・学校スクールソーシャルワーカー ・市民活動支援センター ・適応教室 ・社会福祉協議会 ・ハローワーク 	・活動の周知

5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> ・参考書（みんなの日本語）を使用し、日本語教師によるマンツーマンの支援を行った。 ・自宅学習できるようにパソコンの漢字アプリを紹介するなど対応を行った。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書を使用した日本語学習の形をつくることができた。 ・日本語学習、高校進学対応ができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者へ情報を届けるために周知活動に力を入れる必要がある。 ・高卒認定試験の学習教室とのバランス。 ・様々な言語に対応するため、教材を充実させる必要がある。

7 運営者の声

令和5年度から日本語教室を開講した。学習教室に参加した方は少なかったものの、事業の問い合わせは数件あった。問い合わせの中には春日井の会場が遠いと感じる方もいたため、他地域の学習教室にも相談するように対応を行った。学習教室に参加した外国籍の方は、学習教室に参加した後、自宅学習の時間を多くとり、ある程度日本語で会話ができるようになった。

日本語教室の周知活動を行った際、日本語支援を必要とする外国籍の方が多くいることが分かり、今後は対象者にできるだけ情報が届くような働きかけを強化していくことが重要だと考えている。地域全体で協力し、多様な支援が必要な方々に対して適切な情報とサービスが提供されるように周知活動を継続させる。

参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

Aさん(10代 女性)

2023年度から、日本語学習支援に参加しました。日本語学習支援が開講する以前も愛西地域の学習支援に参加していました。日本語学習支援では、参考書を使用し、対応を行いました。

母国に帰っている期間もオンライン学習を続けて、ある程度、会話ができるようになりました。定時制高校への進学を希望し、無事に合格することができました。

蒲郡地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

21 人

<居住地>

居住地	岡崎市	豊川市	安城市	蒲郡市	新城市
人数	1	13	2	3	2
うち外国人数		10	2	3	2

イ 国籍

国名	フィリピン	韓国	インド	インドネシア	ブラジル	台湾	日本
人数	11	2	1	1	1	1	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上
人数		4	8	2	4	3
うち外国人数		2	6	2	4	3

エ 学歴（カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	4			3	14
うち外国人数	2			3	12

その他の内訳

不明 5(5)、中学在学 2(1)、大学院卒 1(1)、大学中退 1(1)、
フィリピンの大学卒業 1(1)、フィリピンの短大卒業 1(1)、フィリピンの高校中退 1(1)、
フィリピン中学校中退、名古屋の中学夜間学級に通学中 1、小1～小5 フィリピン 1(1)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

日本の高校へ通いたい。 4(1)、
よりよい条件での就職。今後の生活や就職活動に活用していく。 2(2)、
日常会話ができるようになりたい。 2、
よりよい条件での就職（仕事で使用する日本語や漢字の勉強） 1(1)、
日常の日本語会話を学ぶ、中学校の学習補助 1(1)
日本の高校へ通いたい。中学校卒業程度を目指す。 1
日本で働きたい。よりよい条件での就職。プログラマーとして働いていた。1(1)
よりよい条件での就職。仕事に就くために日本語をまなびたい。 1(1)
日本語能力をあげたい。今後働く事を検討中。 1(1)

日本の高校へ通いたい。中学の学習補助 1

職場での日常会話、日本語の聞き分けができない。1

日本語レベルをあげたい。N3合格を目指す。N4を勉強している。 1(1)

N4合格を目指す。 1、N5合格と今後のより良い条件での就職 1

高卒認定を取りたい 1、日本語が話せるようになりたい 1

カ 参加の経緯

- ・紹介（利用者、父親、祖母、姑、職場の同僚、市役所の国際課、Facebook、友人、母親、市役所の学校教育課、叔母、日本語学校）

キ 状況、ニーズ等

- ・現中学3年生と外国で中学校を卒業して来日した参加者が、高校受験（外国人等選抜、定時制）に向けて、日本語の日常会話や入学試験対策の学習をしている。限られた学習時間で日本語を上達させることが難しい。
- ・外国語が母国語の中学生が学校の教科の学習補助のために参加。
- ・職場での日本語によるコミュニケーション向上のために参加。
- ・日本語ができないと採用面接に受からないので、仕事に就くために日本語を勉強したいと参加。

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
・ここで勉強するのは本当に楽しい。先生が優しい。		・日本語を習いたい人は緊張せずここに来て勉強するとよいです。先生が親切に上手に教えてくれます。
・日本語学習にとっても熱中できてよかった。日本語で話したり、コミュニケーションを取れるようになるのがよい。	・もっと日本語を学んで、人とコミュニケーションする方法も学びたい。	・ここの日本語学習はみんなにお勧めできるものです。言葉だけでなく日本について詳しく学んでみるといいです。ここの学習で、まだ知らなかった日本語をたくさん教えてもらいました。
・数学の学習が楽しい。学校で学年1位になれた。方程式や比例式が分かるようになった。		・日本語が分からない人はここで学習支援を受けたら、日本語が上手くなる。

<p>・ここでの学習は楽しい。日本語を覚えるのが好きだから。漢字以外は簡単だが、漢字を学習し始めた最初の1か月は本当に分からず、ひらがなとカタカナで十分なのに、なぜ漢字なんてあるのかと思った。その後、何か月かして漢字が役に立つと分かった。文法の基礎は簡単だが、そうでないものは本当に難しい。</p>		
---	--	--

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・塾講師経験者(教員免許保有)(1人) ・元役員(教員免許保有)(1人) ・若者自立経験者(1人)
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・サポステスタッフからの紹介 ・チラシ(リーフレットを見て活動に興味をもった) 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育OBの知り合い ・サポステスタッフの知り合い 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明等 (来所も含む。)	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者 ・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者 ・蒲郡市内図書館 ・豊川市内図書館及び生涯学習センター ・市内の中学校(7校)(訪問) 	<p>各機関・団体の責任者、又は担当者レベルでの事業の周知ができた。昨年度より各機関等からの紹介が増えた。</p> <p>利用者の悩み事(進路相談等)を受けている内に、関係する学校や機関へスタッフが出向いて話をすることもあった。その際、各学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた事例もあった。「こんな事業があることを知らなかった。」という声が多かった。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者未来応援協議会(豊川市、蒲郡市)2箇所 	協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者レベルでの顔合わせができた。
蒲郡市地域学校協働活動にスタッフが参加して説明	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡中学校において地域学校推進活動として保護者向けの定時制・通信制高校の説明を行った 	学校と地域のつながりに寄与した。また、そこで本事業を知った親子が通所につながった。

5 日本語学習支援の内容について

- ・話せる日本語があいさつ程度の参加者には、ひらがなの「あいうえお」やあいさつから学べるテキストを使って、学習している。愛知県多文化共生推進室の「はじめての日本語教室」という教材を使うこともある。内容が学習者と支援者の距離が縮まるものなので、相互の文化理解にもなっている。
- ・漢字が少しできる参加者は、レベルに合わせた日本語能力試験のテキストを使っている。
- ・学校の勉強の学習の補助で参加している者は、教科書の内容を学んだり、日本語学習のテキストを使ったりして、臨機応変に学習している。スタディサプリを使えるほどには、日本語が上達していないので使用できていない。
- ・日本語も英語も全く話せない参加者とは、タブレットで翻訳して意思の疎通を図る。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学校へ入学 1名 ・高校入学を目指す外国にルーツのある生徒4名を支援。 ・日本語学習利用者3名がアルバイトに採用された。 ・支援内容に学習があることの周知により、学校に通う年代の利用者が増えた。 ・日本語学習で言葉が上達し、中学校での勉強と部活に頑張って取り組めるようになった。 ・進路未決定の利用者に目標ができ、それに向かって学習に取り組めるようになった。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を重ね、機関や団体等からの紹介もあり、より必要とする方へ支援がつながるようになった。 ・関係機関との連携により、オンライン日本語教室で学習している外国人の支援をすることになった。
----	---

課題	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路相談を受けることがあるが、必要な情報を持ち合わせておらず、十分な対応ができずにいる。 ・スタディサプリを活用したいが、うまく活用できていない。動画のようにテンポの良い解説についていけない生徒はスタディサプリの利用が一回で終わってしまう。 ・アルバイトに就けた日本語学習の支援対象者は、勤務時間の都合で学習に来られなくなる事が多く、日本語の会話能力向上が図れない。(日本語) <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験を受験する利用者が少ないので、無料で学習できることを周知する必要がある。 ・高卒認定試験や高校受験に挑戦する利用者や日本語の上達を望む外国人からは、「もっと勉強したい」との声があるが、予算の都合により開催日時(学習の枠)が限られてしまい応えることができていない。(両方) ・経費(報償等)のほとんどは学習支援員の学習業務に当てられることが多い。相談や必要とする関係機関等へつなぐ場合、がまごおりサポートステーションに一度リファーして、サポートステーションのスタッフが各機関(学校、医療、福祉等)へ同行支援やリファーを行っている。本事業の経費の中で「つなぐための業務」の経費を捻出するのはなかなか難しい状況である。他機関、団体等との連携は不可欠である。
----	---

7 運営者の声

令和4年度から愛知県教育委員会委託事業(日本語学習支援)を受託させていただいています。関係機関、団体等の方々の平素からのご理解とご協力に感謝いたします。

本事業を運営する中で外国に由来をもつ方々へ関わりが増えています。本人たちには日本語を学ぶ気持ちがとてもあります。しかし、近くに勉強や学習ができる場所が少ないことや日本語学習ができる行政サービスにたどり着いていない現状がまだまだあるように感じます。若者・外国人未来塾は近くで学習できる場所の一つになっています。日本語ができると、日本でできることが増えます。今年は定時制高校に進学する方、また就職やスキルアップしている方がいます。少しでもここを利用していただき皆様の役に立てばと思います。

参加者ピックアップコラム

(団体名) 青少年自立援助センター北斗寮

Aさん(10代 女性)

フィリピンの中学校を卒業して、2023年5月に来日。直後に、オンラインの日本語学校と、地域のボランティアによる日本語教室で日本語を学び始めた。ここの日本語学習支援は、日本語学校からのリファーにより12月から学習を始めることになった。高校入学を目指して、3団体が支援をしている。それぞれの団体ができることは違うので、連携しながら学習者と関わり、希望する高校に入学できることを願っている。連携することで、無理なくより良い支援になることが実感できた。

知立地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

ア 参加者

19 人

<居住地>

居住地	刈谷市	豊明市	半田市	安城市
人数	4	2	1	6
うち外国人数	4	2	1	6
居住地	知立市	高浜市	碧南市	
人数	2	3	1	
うち外国人数	2	3	1	

イ 国籍

国名	ミャンマー	パキスタン	フィリピン	ペルー
人数	1	3	8	3
国名	スリランカ	ベトナム	インドネシア	
人数	1	2	1	

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12 歳	～15 歳	～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30 代以上	不明
人数	4	4	9			1	1
うち外国人数	4	4	9			1	1

エ 学歴（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1	3	1		14
うち外国人数	1	3	1		14

その他の内訳 母国で高卒 3(3)、母国で大学中退、母国で中卒 2(2)、母国で高校中退 2(2)、母国で中卒 1(1)、インターナショナルスクール在学 1(1)、不就学 1(1)、中学在学 2(2)、小学在学 2(2)、

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。カッコ内は外国にルーツをもつ人）

学習の補助 6(6)、高校進学 8(8)、日本語 2(2)、大学進学 2(2)、よりよい就職 1(1)

カ 参加の経緯

国際交流団体からの紹介、先生からの紹介、市役所の紹介

キ 状況、ニーズ等

- ・外国にルーツをもつ利用者と、祖国で中学を卒業した者が、来日して、日本の高校に通おうと思うと、それを支援してくれる民間団体がいない。義務段階の外国人の学習支援の場は、公的の場所でも、ボランティア団体の支援としても、各市町に存在しているが、義務教育を離れて、高校進学、高校での学習支援をする場がなく、未来塾がその支援の受け皿になりつつある。
- ・日本語学習の支援となっているが、純粋に日本語学習の支援を行っているのは、2名である。後は主に上記のとおり、高校の勉強や、高校入試の受験の支援であり、学習支援をとおして、日本語の支援もやっている状態で、両者を区別することはできない。

2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
ここでは外国人たちは勉強をしているので、みんなも楽しいと思う	夜定の時間と塾の時間が同じなので、違う時間に勉強したい。	
学校では分からないレッスンができて、ここでもう一回勉強することができます。	宿題を出してほしい、家でも勉強するため。	一緒に未来塾で勉強しましょう。
先生たちの教え方はストレスを感じさせない。唯一の問題は家が遠いことだが、良い場所です。	高校試験の問題、数学の問題をたくさんやりたい。	無料で先生は親切で、教えるのが上手なので、助けが必要な生徒には良い方法だと思う。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	9 人	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の支援員（4 人） ・元高校教諭（1 人） ・家庭教師の経験のある理系大学院卒（1 人） ・臨床心理士、元高校教諭（1 人） ・コーディネーター（2 人）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。 ・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す。 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる。 ・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町の若者支援の団体、子若の協議会の委員。 ・親の会主催の進路説明会の参加者 ・ぷらっとほーむのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。 	パンフレットのデザインは評価される。それを見ての参加者あり。
S N S	<ul style="list-style-type: none"> ・ X (Twitter) ・ Instagram での広報 	フォロワー数： X…198 人、Instagram…211 人 ※見ている人数は増えている。
W e b サイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ぷらっとほーむのW e b サイトでの広報 	N P O の活動の一つとして、団体に興味のある人たちに周知されている。
公式 L I N E	<ul style="list-style-type: none"> ・未来塾の利用者 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。 ・利用者から欠席の連絡が入るようになった。 ・スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。

5 日本語学習支援の内容について

・受験生でない利用者には、「みんなの日本語」等のテキストをやったりして、初歩から丁寧に教えている。定時制の入試問題を解きながら、躰く日本語の意味を教え、語彙を増やしている。日本人の利用者と一緒に、日本語の単語を使ったゲームをして、日本語での会話を楽しむ。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外国ルーツの子たちの高校進学への受験対応を行っている。 ・未就学の外国にルーツをもつ子の唯一の学びの場になっていると同時に、母親の安心できる場となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増え、日本語が得意でない利用者が多くなってきて、先生の手や目が届きにくい場面が多くある。 ・入試情報が少なく、外国にルーツをもつ受験予定者が、進学先を決めるのが容易ではない。

7 運営者の声

外国にルーツをもつ人に対しては、学習面の支援のみでなく、学校に通うための様々なサポートも必要になってくる。例えば、高校進学支援のために説明会などに参加しようとしても内容を理解することは簡単ではないので、学校見学等に同行することや、今年度から、県立高校の受験がWeb出願となったが、手続きを進める上でのサポートなども必要と思われる。また、中学や地域の外国人の支援機関に未来塾のことを周知されるようになると、今後、確実に利用者の数が増えることも予想される。こうしたサポートを充実させていく必要性は、ますます必要になってくるのではないかと考える。

4 2023（令和5）年度「若者未来応援協議会」の実施状況

(1) 合同協議会について

【合同協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年9月22日 (金)	愛知県生涯学習 推進センター	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び成果と課題について 【協議】 「若者・外国人未来応援事業」における課題について (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について (2) 効果的な広報の在り方について (3) 高卒認定後の進路支援の在り方について
情報交換会	令和6年1月25日 (木)	オンライン 配信拠点： 愛知県生涯学習 推進センター	【事例発表】 ・支援において工夫していること、学習支援・相談の中で困った事例など 【情報提供】 ・「本事業における「キャリア支援」について」
2	令和6年2月15日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	【報告】 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 (1) 9地域全体の状況 (2) 令和5年度若者未来応援協議会 情報交換会 から各地域の状況 【協議】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」における課題 ・学習支援利用者が必要とする「支援」を充実させるには (2) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」

(2) 地域協議会について

【名古屋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年10月11日 (水)	愛知県図書館	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について 【協議】 (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について (2) 定時制・通信制アップデートプラン、夜間中学との連携について

2	令和6年2月14日 (水)	愛知県図書館	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要（次年度に向けて） (2) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
---	------------------	--------	---

【豊橋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年5月10日 (水)	豊橋市役所	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】
2	令和6年2月16日 (金)	豊橋市役所	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】

※ 豊橋地域協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催している。

【豊田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年7月20日 (木)	豊田市 青少年センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 【情報交換】
2	令和6年2月21日 (水)	豊田市 青少年センター	【報告①】 ・令和5年度 若者・外国人未来応援事業 実施状況 ・令和5年度 若者・外国人未来応援事業 成果と課題（まとめ） ・令和6年度「若者・外国人未来応援事業」について ・高等学校卒業程度認定試験における試験科目、合格要件、免除科目、試験範囲の変更等について若者・外国人未来応援事業 実施概要 【報告②】 ・令和5年度「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 【情報交換】

【半田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年7月4日 (火)	クラシティ	【報告】 (1) 令和4年度の事業について報告 (2) 令和5年度の事業について報告 (3) 高卒認定試験の受験者結果等報告 【協議】 (1) 通信制高校希望者の増加の現状 (2) 不登校の増加傾向について (3) 夜間中学
2	令和5年12月5日 (火)	クラシティ	【報告】 (1) 令和5年度の事業運営について報告 (2) 令和6年度に向けての変更案 (3) 高校卒業認定試験の受験者結果等報（SSWとの連携）学校訪問について (4) 外国籍の利用者についてのサポート（日本語講師について） 【協議】 (1) 不登校の増加傾向また夜間中学について、他進展があった内容 (2) 職場体験以外のキャリア教育について (3) 寄り添う大人のいない社会の中における学習支援事業の在り方や地域での支援連携としてのサポステについて

【春日井地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年12月15日 (金)	春日井市役所	【報告】 (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携、課題について 「若者・外国人未来応援事業」における関係機関等の業務内容について
2	令和6年2月22日 (木)	春日井市役所	【報告】 (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」、実施状況、他地域の取組、成果について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果及び次年度の計画について（広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について）

【一宮地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年10月10日 (火)	一宮市 社会福祉協議会	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について 【協議】 (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について (2) 定時制・通信制アップデートプラン、夜間中学との連携について
2	令和6年2月6日 (火)	一宮市 社会福祉協議会	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要（次年度に向けて） (2) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について

【蒲郡地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年9月20日 (水)	豊川市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（豊川市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】
2	令和5年11月20日 (月)	蒲郡市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（蒲郡市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】

※ 蒲郡地域協議会は「豊川市子ども・若者支援地域協議会」、「蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会について」の一部に位置付けて開催している。

【愛西地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年12月21日 (木)	愛西市文化会館	【報告】 (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況、地域協議会について 【協議】 (1) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の地域協議会、連携、課題について
2	令和6年2月16日 (金)	愛西市文化会館	【報告】 (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」、実施状況、他地域の取組、成果について (2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果及び次年度の計画について（広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について）

【知立地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年8月16日 (水)	刈谷市 社会教育センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 義務教育後の子供、若者の支援の現状と課題について
2	令和6年2月21日 (水)	刈谷市 社会教育センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の令和5年度の実施状況について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の令和5年度の実施状況について 【協議】 (1) 未来塾に関わる若者・外国人の支援の現状と課題について

5 学習支援に参加された皆さんの声

学習支援参加者（日本語学習支援含む。）にとって、この事業に参加してみて、自分自身にどのような変化があったのかなど、経験の振り返りを呼びかけたところ、何人かの方が応えてくれました。

この事業を利用し、感じたことを自分の言葉で表現をしてくれました。学習支援参加者の貴重な「生の声（御本人の言葉を生かして）」として掲載させていただきます。

【学習支援を受けて】 豊橋地域 17 歳

私は、高校に1年だけ通い、途中でやめてしまいました。

ですが、やりたい事ができた時に大学や専門学校に通えるようになりたいので高校を卒業したという資格を持っていないと将来困ると思い、高校卒業程度認定試験を受けようと思いました。そしてこの学習支援をやっていることを知りました。分からない所などを丁寧に分かりやすく教えてくれたり、アドバイスなどをいただいたりして、とても勉強が楽しいです。

そして現在、高校卒業程度認定試験を受けあと英語だけで1教科なので、このまま頑張りたいです。身近な人が勉強や試験などで困っていたら、この学習支援を紹介したいです。

【学習支援を受けてから】 豊橋地域 16 歳

中学は行って卒業をしたんですけど、私は中学校時代の勉強は頭に入ってこなくて、すぐ忘れてしまって、中学1年生レベルもわからなくて、勉強も何がわからないかわからない状態でしたが、それでもやさしく、中学1年レベルから教えてもらい、英語はローマ字しかわからない程でしたが、短期間で、ある程度よめるようになりました。でもまだまだ単語が覚えられていなくて、私のペースで覚えれるように、勉強法をいろいろ変えてもらい、私に合う勉強法を見つけてもらいました。ずっと同じ科目を勉強するのは疲れると、違う科目も教えてもらいます。たまに出る豆知識も勉強の息抜きになっています。この学習支援に来られてよかったです。

きっと毎日毎日、勉強をしていたら息が詰まってしまうので、ここの火、木、金曜日の、18時～20時のこの時間に勉強するのは、結構、楽で、焦らないで、ゆっくりやれます。

【学習支援に参加してからを振り返って】 半田地域 20 歳

学習支援の皆さんが優しく教えてくれるので楽しく通えています。

コロナがきっかけ高校中退で高卒認定資格がとれるまであと地理だけなので今年に取れるようがんばりたいと思う。最初は家にいるだけだったけど社協の人がちたサポを教えてくれて相談するようになった。父親が病気なので少しでも助けになればとアルバイトをしようと思った。やれそうなスーパーの品出しを受けたが、筆記テストがあって問題を解くのに時間

がかかりすぎて受からなかった。色々相談して面接練習をして今度は準備して受けたら郵便局の仕分けが受かった。その稼いだバイト代で父や母にプレゼントを初めてしました。とても喜んでくれたので嬉しかったです。

【学習支援に参加してからを振り返って】 半田地域 17 歳

碧南から半田に通っている。祖母の家が半田にあるので土曜日限定で学習支援にかよっている。高校は行ったけど辞めてしまった。人間関係がうまくいかなかった。

母の会社の人がここを教えてくれた。支援員さんが優しいので、ここにきて勉強していると楽しい。最初は高卒認定を目指してきたけれど、今はまだ勉強だけをしている。高校で単位証明ももらってきたけど、高認はまだかなと思う。いまはゴミの清掃車にのってゴミ回収のアルバイトをしている。話を聞いてもらったりできるので何とか一年続いた。

アルバイトですごくショックなことがあっても学習支援に来た。いつか高卒認定試験を受験しようとは思っている。頑張りたい。

【学習支援に参加して】 半田地域 22 歳

高校のスクールソーシャルワーカーさんに紹介してもらって通いはじめました。

今はパソコンを学習支援にきて練習をしています。他にもスタッフと見学にいったりしたけどどこにも決められなかった。タイピングを練習して少し早く打てるようになっていと思う。ちたサポのチラシをパワーポイントで作ってあるものを見ながらやり方を教えてもらって、初めてひとりで完成できた。嬉しかった。印刷してもらったので持ち帰って家でみたら直したいところがあったので自分でチェックして次に行ったときに直した。スタッフが作ってくれたのを仕事で使うと言っていたので、前よりきれいにできてよかった。

【漠然としていた目標がかたちに】 春日井地域 27 歳

高卒認定資格を取ろうと思っていた時に学習教室の存在を知りました。初めて会場に足を運んだ際は、緊張しましたが、将来の夢である高齢者と関わる仕事したいという話を聞いてくれ、暖かい対応に安心し、学習教室への参加を決めました。

学習教室では、自分の学力に合わせて丁寧に指導してもらいましたが、勉強が苦手で躓くこともありました。そのような時、学習支援員の方がモチベーションを引き上げる言葉をかけてくれたことが印象的でした。高卒認定試験に合格するまでには2年かかりましたが、無事に合格することができました。

学習教室卒業後、アルバイトをしながらも、看護師になるという夢は変わらずありました。昨年、看護学校受験を決意しました。一人で勉強することに不安があったので、再び学習教室に参加しました。学習教室では、受験科目の勉強や小論文の書き方を教えていただきました。学習支援員の方が自分のために問題を用意してくれ、オンライン学習にも柔軟に対応していただき、とても感謝しています。

令和5年8月、無事に看護学校に合格することができました。学習教室に初めて足を運んでから4年が経ちますが、当初漠然としていた目標が具体的なかたちになりました。4年前は看護学校に合格することなど考えていませんでしたし、学習教室に参加しなければこの成果もなかったと思います。本当にありがとうございました。

【サポートについて、勉強について、カウンセリングについて】 蒲郡地域 31歳

勉強について理解できないと進めない性格な私は何度も色々な伝え方、文、図などを使って教えてくださるので、学校の勉強が（じゅぎょうが）苦手だった私にとって理解して、進んでいくことが楽しく、学べたのがとても自信になりました。

カウンセリングでは、自分について、人とのかかわりかたを学べたり、昔から1人で考えていて心をこわしたこともあり、弱音や、ぎもんを聞けたり、頭がごちゃごちゃになっていたことを一緒にせいりをしてくれたことで、生きていくのが、楽になりました。

自分も誰かを助けられる人になりたいと思いました。

力をかけて頂きありがとうございます。

【勉強がんばります。】 知立地域 41歳

ここは場所もいいし、先生達もしゃべりやすくて、めんどろをよくみてる。

日本語の勉強はたのしい。漢字が少しできるようになりました。漢字むつかしいです。宿題も少し家でやっています。家ではやることがいっぱい。子ども達もうるさいです。本当はたくさん勉強したいです。これからもがんばります。

6 事業の成果と課題

(1) 成果

○困難を抱える若者のステップアップに貢献した。

参加者の能力等に合わせた高卒認定試験合格に向けた学習支援を実施することができた。

<参考>

- ・本事業参加者数（7か年：延べ）：657人
- ・高卒認定試験受験者（7か年）実人数：185人
- ・高卒認定試験合格者（7か年）全科目合格者数：79人
一部科目合格者数（延べ）：92人
- ・学習支援参加者における高卒認定試験受験者数の割合（7か年）：28.2%
- ・高卒認定試験受験者における全科目合格率（7か年）：42.7%

地域	実受験者数割合 (対参加者数)							全科目合格者数 (対参加者数)							全科目合格者数 (対受験者数)						
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29
名古屋	32.3%	28.6%	34.6%	44.4%	42.1%	71.4%	21.1%	16.1%	14.3%	19.2%	16.7%	21.1%	21.4%	10.5%	50.0%	50.0%	55.6%	37.5%	50.0%	30.0%	50.0%
豊橋	12.5%	8.3%	11.8%	30.8%	41.2%	42.9%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	15.4%	17.6%	28.6%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	50.0%	42.9%	66.7%	50.0%
豊田	4.2%	18.2%	25.9%	20.0%	25.0%	37.5%	28.6%	0.0%	9.1%	11.1%	6.7%	10.0%	12.5%	14.3%	0.0%	50.0%	42.9%	33.3%	40.0%	33.3%	50.0%
半田	30.8%	55.6%	44.4%	33.3%	100.0%	—	—	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%	—	—	0.0%	60.0%	25.0%	0.0%	100.0%	—	—
春日井	63.6%	80.0%	58.3%	50.0%	66.7%	—	—	27.3%	33.3%	25.0%	12.5%	0.0%	—	—	42.9%	41.7%	42.9%	25.0%	0.0%	—	—
一宮	23.1%	0.0%	33.3%	100.0%	—	—	—	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	—	—	—	0.0%	—	0.0%	50.0%	—	—	—
蒲郡	7.1%	11.5%	3.3%	16.7%	—	—	—	0.0%	7.7%	3.3%	0.0%	—	—	—	0.0%	66.7%	100.0%	0.0%	—	—	—
愛西	20.0%	66.7%	66.7%	—	—	—	—	20.0%	16.7%	66.7%	—	—	—	—	100.0%	25.0%	100.0%	—	—	—	—
知立	0.0%	0.0%	—	—	—	—	—	0.0%	0.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	19.3%	27.5%	26.0%	32.3%	39.3%	52.8%	25.0%	7.2%	12.7%	11.8%	11.8%	18.0%	22.2%	12.5%	37.5%	46.2%	45.5%	36.7%	45.8%	42.1%	50.0%
平均	28.2%							12.0%							42.7%						

※ 参加者数は、各年度事業開始から第2回高卒認定試験日（令和5年は11月5日）までの人数とした。

○切れ目のない支援実施の継続

例年課題であった事業開始時期の早期化であるが、4月から3月初頭までと切れ目ができるだけ短くなるように実施した。

【（参考）契約時期】

①H29～R1 年度【委託事業】	②R2 年度【補助事業】	③R3～R5 年度【補助事業】
・国の審査を経て事業実施	・県のプロポーザル審査会で委託団体を選定後、契約	・継続地域については現委託団体と随意契約
◎ 7月契約 (継続地域の契約はH30～)	◎ 5月契約	◎ 4月契約

○学習支援参加者に気持ちの変容が見られた

「高等学校卒業程度認定試験に（一部科目合格も含めて）合格した」という成功体験や、「今まで小学校や中学校で学ぶ内容が分からなかったことが分かるようになる」ことで、学ぶことの楽しさを感じたり、自分に自信が出てきたりするなど、意欲の向上につながるケースがみられるようになった。その結果、新たに今後に向けた目標を設定したり、他の資格取得・社会参加へ向けての意欲への向上へとつながったりするようになってきた。また、学習支援を受けた経験から、自分が感じたことを他の人にも感じてほしいという思いから、学習支援に携わる側として、参加する方も現れるなどのケースも出てきた。

(2) 課題

○支援の対象者増加に伴う学習履歴・目的などの多様化への対応

一方で、高卒認定試験を受験することを目標としていても、今までに不登校やひきこもりを経験していると、それまでに積み重ねてきた学力が受験するまでに追いついていない場合もある。また、学校に通っている学習内容を一層理解できるようにしたい、あるいは、外国人の方や、障害・様々な悩みを抱えた方が学びたいという意欲をもって利用されたりするなど、支援の対象者の学習履歴や目的意識などが事業を進めていく中で多様化している。その結果、多くのニーズを求められることになり、支援員・スタッフの対応力が求められる。また、そうしたことに對してきちんと対応できる支援員・スタッフの確保も必要である。

高卒認定試験で全科目合格をするなど学習面での目標を達成したとしても利用者の方にとっては、その結果はゴールではない。その資格などを生かし、その後の人生をどのように過ごし、社会と関わっていくのが大切になる。また、支援の対象者は、この事業に参加するまでに、他者との関わり方が得意ではなく、自己有用感を高めることを、学校・地域などで十分経験などを積むことができていない。そうした、新たな目標を立てるための支援の在り方についてもどのようにするべきかを考えることも「切れ目のない支援」として必要である。

また、支援員間の情報共有も必要となっている。支援の対象者に必ず同じ支援者が対応できるとは限らない。その時に、組織的な支援体制として、お互いに不安な気持ちにならないためにも、プライベートな情報の取扱いに注意しながら情報を共有することは必要なことである。さらに、近年は、高等学校の学習指導要領の改訂などに伴う上級学校の入学者選抜方法の多様化や、県立高等学校においても令和6年度入学者選抜からはWeb出願が導入されるなど、新たな動きが多く出てきているので、高等学校・大学などの入試制度をはじめとする必要な情報の更新していく必要がある。

○他機関との「連携」の強化

本事業は、支援の対象者がどこにも所属しておらず、捕捉が難しいことが特徴の一つとしてある。支援を必要としている方に、事業の周知が行き届くよう様々な支援機関・団体と連携することは極めて大切なことである。また、「連携」というのは、若外的事

業周知だけでない。対象者への支援として、「他機関へつなぐ」という意味でも必要となっている。本事業では、学習支援のみではなく、相談・助言なども行うが、全てを請け負うことは難しい場合もある。支援・協力をいただける選択肢を委託している団体の方、他機関の方がお互いにもつことが必要と言える。

現在、各地域での支援ネットワークの構築を目指す地域協議会を、令和2年度から地域協議会は委託団体主催で実施している。当初は、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域協議会を対面で実施することは、思うように進めることはできなかった。しかし、今年度、対感染症法上の位置付けが5類に移行されたことで、これまで以上に、顔の見える関係性は築きやすくなってきた。次年度以降に、より効果的な事業展開ができるように県あいちの学び推進課も、委託団体と積極的に関わっていききたい。

また、各地域での委託団体の事業運営が円滑に進むよう、会場のある自治体を中心とした連携を強化していく方策を検討していききたい。

右の図は、政府広報オンラインに掲載されている「“こどもの貧困”は社会全体の問題 こどもの未来を応援するためにできること（URL <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202303/3.html>）」の「こどもの貧困は社会の未来にも大きく影響します」から抜粋したものである。



この図は、経済的な面での「貧困」の影響を表したものであるが、経済的な面だけの影響ではない。人との関わりが少ない、あるいは、信頼できる友人ができず助けを求めることができない、閉じこもり孤立するなど「関係性の乏しさ」を招いたり、部活・スポーツに参加することを諦める、あるいは、遊び・文化的なものに触れる機会がなくなるなど「経験・体験の乏しさ」を招いたりするなど、その人の人間性を形成する面においても影響を及ぼすことが考えられる。

県あいちの学び推進課としても、利用者が悩みを解決し、次のステップアップへと進めることができる事業となるよう各地域委託団体への支援を積極的に行っていききたい。

実施に当たった県内9地域の団体が、年数は各団体により異なるもののノウハウは確実に蓄積され、実績を積んでいる。そのノウハウを県全体として共有し、各地域での支援に還元することで、事業全体の質の向上を図る仕組みを構築することも必要である。

課題については、一つずつ解決を図りながら、一人でも多くの方が、今置かれている困難な状況を乗り越えて、自分の将来に希望をもつ手助けの事業となるよう、次年度以降も検討を重ねていく。

2023年度（令和5年度）

愛知県「若者・外国人未来応援事業」成果報告書

発 行 令和6年3月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号